

一般廃棄物(ごみ)処理基本計画

2018～2027

〔資料編〕

2018年(平成30年)3月

安 城 市

目 次

1. 市の概況	資-1
2. ごみ処理行政の沿革	資-9
3. ごみ組成	資-13
4. 他都市との比較(システム指針).....	資-14
5. ごみ発生量及びごみ排出量の推計.....	資-19
6. 第5回 e モニターアンケート「ごみの減量やリサイクルについて」.....	資-44

1. 市の概況

1-1 位置・地勢

本市は、愛知県及び西三河平野の中央部に位置し、北は豊田市、東は岡崎市、南は西尾市、西は知立市、刈谷市、高浜市、碧南市と接しています。

地形は、碧海台地の中にあり北部に丘陵部が見られますが、標高差は約 27m(標高 0.5m~27.7m)と全体的に平坦であり、市域は南北 13.7km、東西 10.6km で、面積は 86.05km²となっています。

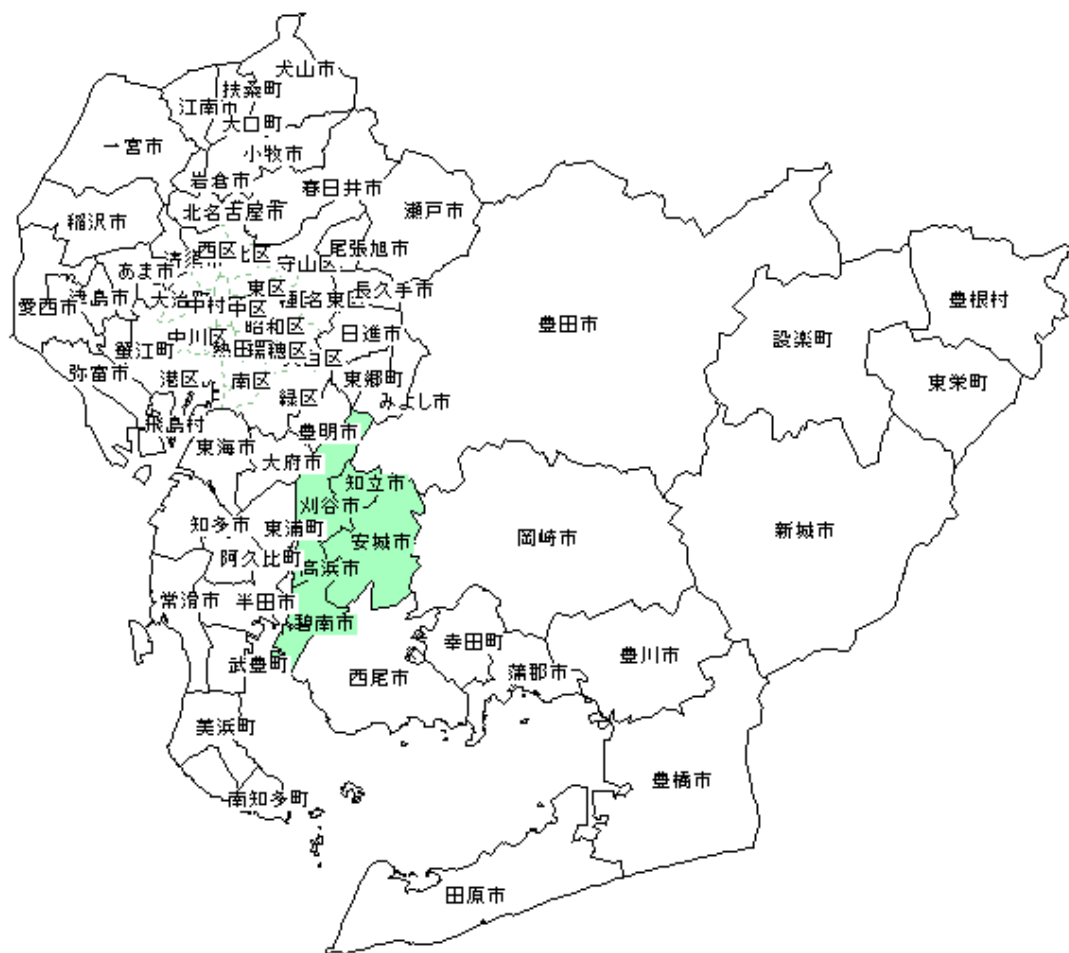
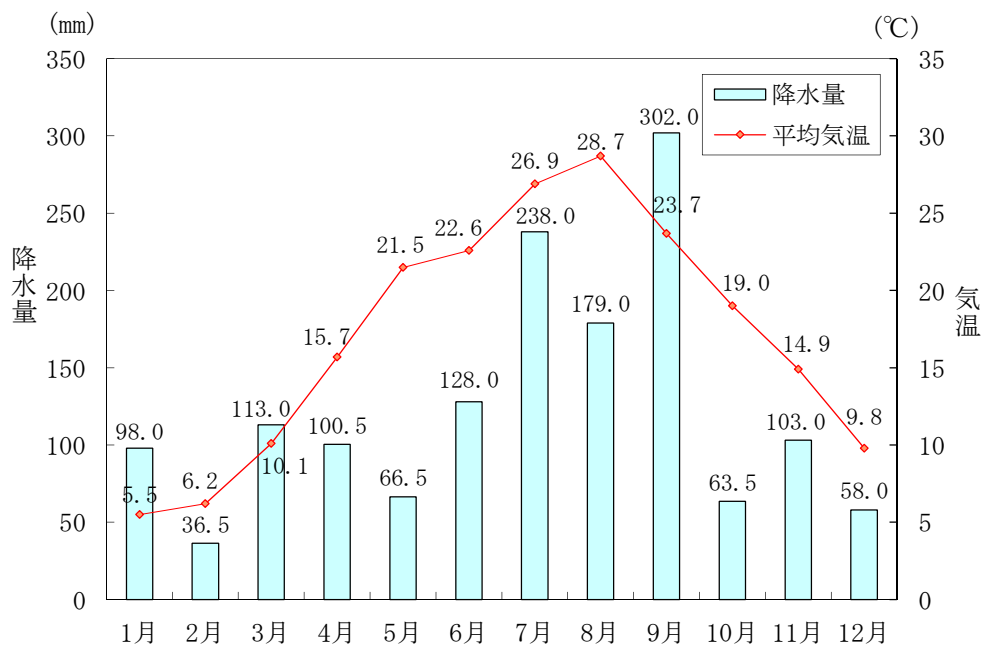


図 1-1 位置図

1-2 気象

2015年(平成27年)の平均気温は17.1℃、年間降水量は1,486mmとなっています。
台風が多く発生した年であり、例年に比べ降水量が多くなっています。



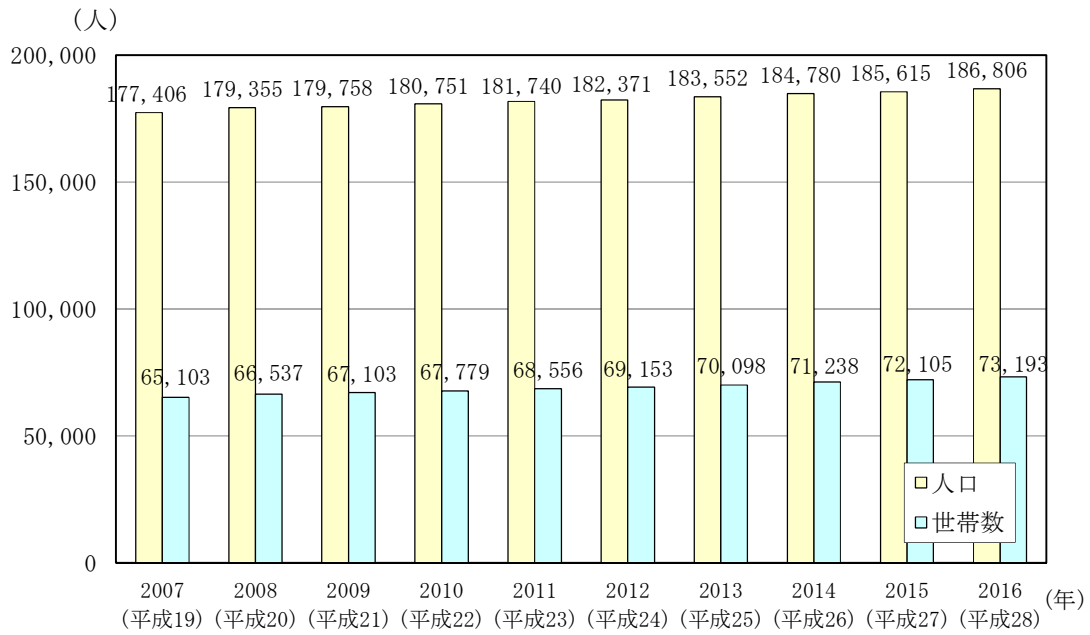
資料：'16安城の統計

図1-2 気温と降水量 [2015年(平成27年)]

1-3 人口動態

(1) 総人口

過去10年間(2007年(平成19年)~2016年(平成28年))の総人口の推移は、図1-3のとおりです。総人口は、増加傾向を示しています。世帯数も、増加傾向を示しています。2016年(平成28年)の1世帯当たりの人員は2.6人となっています。

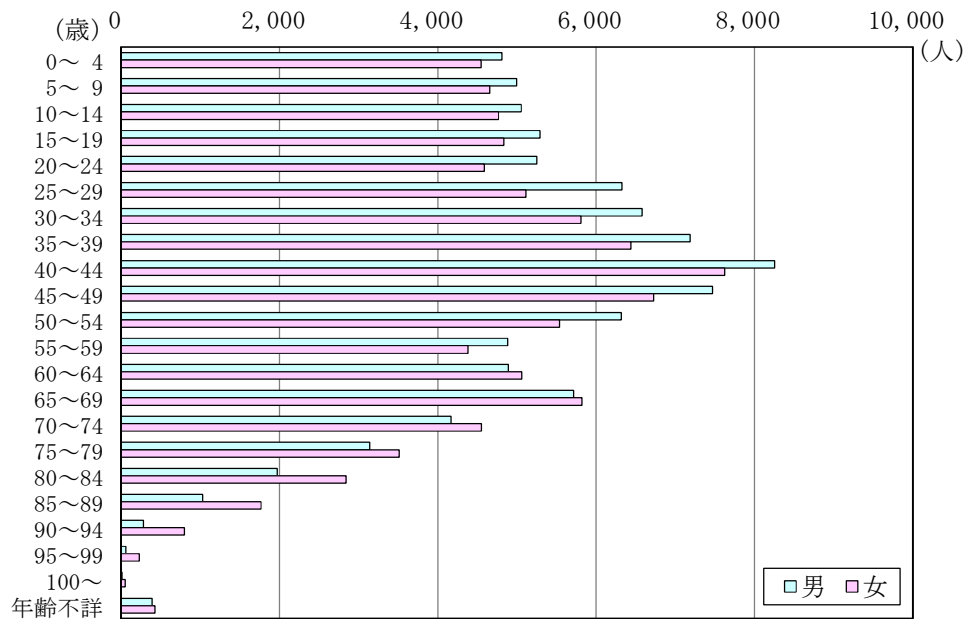


資料：'16 安城の統計

図 1-3 総人口の推移

(2) 年齢別・性別人口

年齢別・性別人口は、図 1-4 のとおりです。2015 年(平成 27 年)の総人口は、184,140 人であり、年少人口(15 歳未満)は 28,829 人 (15.7%)、生産年齢人口(15～64 歳)は 118,563 人 (64.7%)、老年人口(65 歳以上)は 35,936 人 (19.6%) となっています。



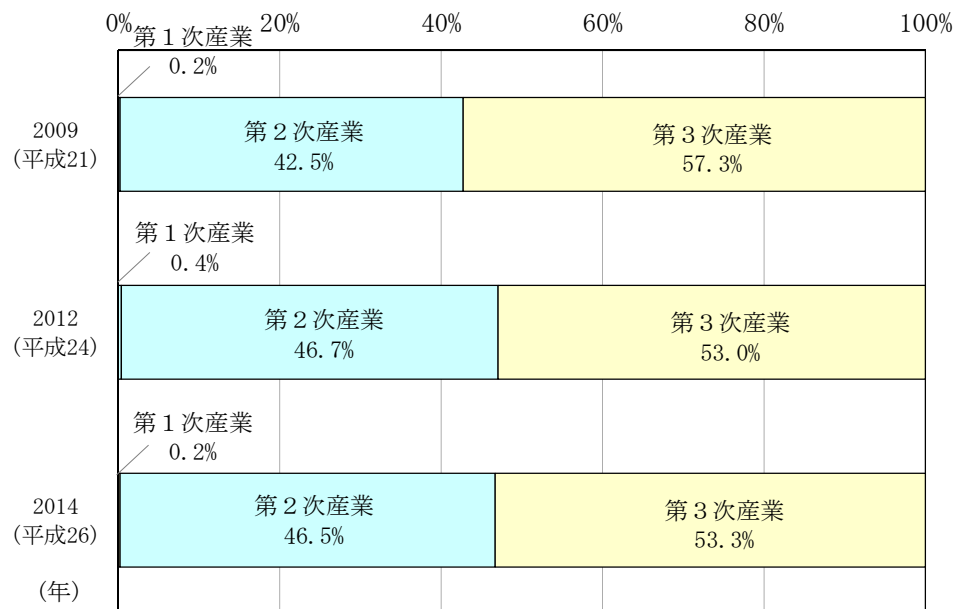
資料：'16 安城の統計

図 1-4 年齢別・性別人口 [2015 年(平成 27 年)]

1-4 産業の動向

(1) 産業構造

2014年(平成26年)の産業別従業者数は、第1次産業258人、第2次産業52,191人、第3次産業59,862人となっています。

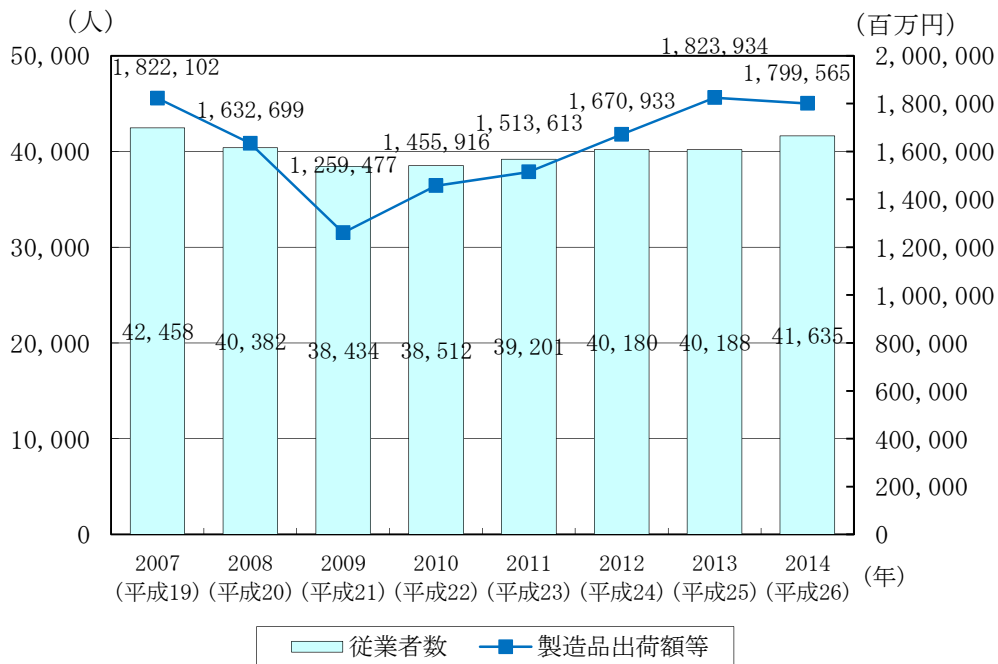


資料：'16安城の統計、2009年(平成21年)は経済センサス

図1-5 産業構造の比率 [2014年(平成26年)]

(2) 工業

工業の従業者数及び製造品出荷額等は、図1-6のとおりです。2014年(平成26年)は、従業者数41,635人、製造品出荷額等1,799,565百万円となっています。

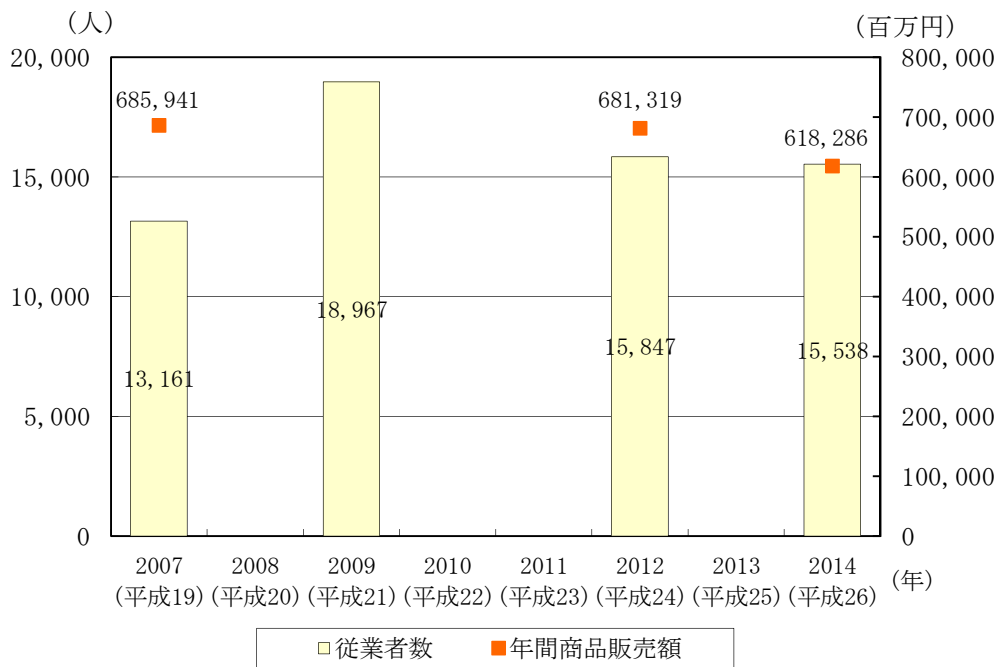


資料：'16 安城の統計

図 1-6 工業の従業者数及び製造品出荷額の推移

(3) 商業

商業の従業者数及び製造品出荷額等は、図 1-7 のとおりです。2014 年(平成 26 年)は、従業者数 15,538 人、年間商品販売額 618,286 百万円となっています。



資料：'16 安城の統計

図 1-7 商業の従業者数及び年間商品販売額の推移

1-5 土地利用状況

土地利用面積は、表1-1のとおりです。田が31.58km²(36.7%)と最も多く、次いで宅地が23.10km²(26.8%)となっています。

表1-1 土地利用面積 [2016年(平成28年)]

1日1日現在(単位: km ²)						
総面積	田	畑	宅地	山林原野	雑種地	その他
86.05	31.58	6.06	23.10	0.15	4.44	20.72

資料: '16安城の統計

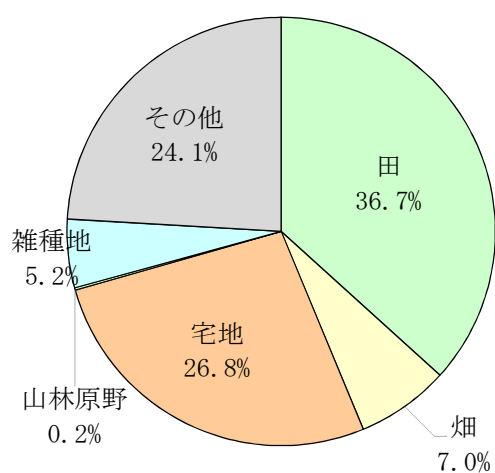


図1-8 地目別土地利用面積の比率 [2016年(平成28年)]

1-6 上位計画

平成 27 年度に策定された「第 8 次安城市総合計画」及び「安城市環境基本計画」のごみ関係の基本施策を抜粋し以下に示します。

計画書名	第 8 次安城市総合計画										
計画の期間	2016 年度(平成 28 年度)から 2023 年度までの 8 年間										
都市像 (基本理念)	市民一人ひとりが生活の豊かさとともに幸せを実感できるまち										
推計人口	2020 年 : 187,615 人、2025 年 : 189,902 人、2030 年 : 191,572 人										
ごみ関係	【施策の方針】 ○資源循環とごみ減量の推進 ・「もったいない」の心を育み、ごみを出さない暮らしとともに、ごみを資源としてリサイクルする循環型社会の実現を目指します。 ・明治用水をはじめ水資源の重要性について意識の向上を図り、水循環の保全を推進します。										
	【成果指標】 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>説明</th> <th>実績値 2013 年度 (平成 25 年度)</th> <th>目標値 2023 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般廃棄物の再生利用率(リサイクル率)</td> <td>廃棄物の再資源化を図ることにより、資源の有効利用が進み最終処分量が減少します。</td> <td>24.2%</td> <td>26%*</td> </tr> </tbody> </table>			指標	説明	実績値 2013 年度 (平成 25 年度)	目標値 2023 年度	一般廃棄物の再生利用率(リサイクル率)	廃棄物の再資源化を図ることにより、資源の有効利用が進み最終処分量が減少します。	24.2%	26%*
	指標	説明	実績値 2013 年度 (平成 25 年度)	目標値 2023 年度							
一般廃棄物の再生利用率(リサイクル率)	廃棄物の再資源化を図ることにより、資源の有効利用が進み最終処分量が減少します。	24.2%	26%*								
※目標値は、総資源化量の内 2013 年度(平成 25 年度)資源化量(溶融スラグ)を基準に設定しています。											

計画書名	安城市環境基本計画		
計画の期間	2016 年度(平成 28 年度)から 2020 年度の 5 年間		
将来像	環境負荷の少ない、人と自然が共生する、良好な環境が持続的に発展するまち		
ごみ関係	【基本目標】 資源が循環するまちをつくる (1) 資源の循環 ① 2R(リデュース・リユース)の推進		
	施策名	施策内容	
	家庭ごみのリデュースの促進	料理を通じて、家庭から出るごみで最も多いごみを減らす方法について周知します。	
	ごみのリユースの促進	市で収集したごみのうち、リユース可能なものを販売したり、安城七夕まつりで発生した竹飾りを再利用することで、リユースについて啓発します。	
除籍本コーナーの常設と本のリユースの促進	(仮称)図書館の整備を機に、情報拠点施設 1 階に「除籍本コーナー」を常設し、不要となった図書館の除籍本や市民からの持ち寄り本などを提供します。また、公民館等での除籍本配布イベントを拡充します。		

ごみ関係	<table border="1"> <tr> <th>指標名</th> <th>現状値 2014年度 (平成26年度)</th> <th>目標値 2020年度</th> </tr> <tr> <td>2Rの啓発回数</td> <td>24回/年</td> <td>36回/年</td> </tr> <tr> <td colspan="3">指標の見方</td> </tr> <tr> <td colspan="3">ごみを減らす取組みを広げるための様々な啓発活動の回数です。</td> </tr> </table>			指標名	現状値 2014年度 (平成26年度)	目標値 2020年度	2Rの啓発回数	24回/年	36回/年	指標の見方			ごみを減らす取組みを広げるための様々な啓発活動の回数です。		
	指標名	現状値 2014年度 (平成26年度)	目標値 2020年度												
	2Rの啓発回数	24回/年	36回/年												
	指標の見方														
	ごみを減らす取組みを広げるための様々な啓発活動の回数です。														
	②リサイクルの推進														
	<table border="1"> <tr> <th>施策名</th> <th colspan="2">施策内容</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">資源収集拠点・利用施設の運用</td> <td colspan="2">資源収集における市民の活動を支援します。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">資源の拠点回収施設や処理施設の効率的な運用を進め、廃棄される資源の回収に努めます。</td> </tr> <tr> <td>市の事業におけるリサイクル推進</td> <td colspan="2">ごみの焼却灰の溶融化や給食の残さの堆肥化などにより、市の事業において発生するごみを再生し、資材としての利用を進めます。</td> </tr> </table>			施策名	施策内容		資源収集拠点・利用施設の運用	資源収集における市民の活動を支援します。		資源の拠点回収施設や処理施設の効率的な運用を進め、廃棄される資源の回収に努めます。		市の事業におけるリサイクル推進	ごみの焼却灰の溶融化や給食の残さの堆肥化などにより、市の事業において発生するごみを再生し、資材としての利用を進めます。		
	施策名	施策内容													
	資源収集拠点・利用施設の運用	資源収集における市民の活動を支援します。													
		資源の拠点回収施設や処理施設の効率的な運用を進め、廃棄される資源の回収に努めます。													
	市の事業におけるリサイクル推進	ごみの焼却灰の溶融化や給食の残さの堆肥化などにより、市の事業において発生するごみを再生し、資材としての利用を進めます。													
	<table border="1"> <tr> <th>指標名</th> <th>現状値 2013年度 (平成25年度)</th> <th>目標値 2020年度</th> </tr> <tr> <td>一般廃棄物の再生利用(リサイクル)率</td> <td>24.2%</td> <td>25.5%</td> </tr> <tr> <td colspan="3">指標の見方</td> </tr> <tr> <td colspan="3">ごみの排出総量に占める資源の割合を示します。</td> </tr> </table>			指標名	現状値 2013年度 (平成25年度)	目標値 2020年度	一般廃棄物の再生利用(リサイクル)率	24.2%	25.5%	指標の見方			ごみの排出総量に占める資源の割合を示します。		
	指標名	現状値 2013年度 (平成25年度)	目標値 2020年度												
	一般廃棄物の再生利用(リサイクル)率	24.2%	25.5%												
	指標の見方														
ごみの排出総量に占める資源の割合を示します。															
(2)ごみ減量の推進															
①ごみ分別、減量の徹底															
<table border="1"> <tr> <th>施策名</th> <th colspan="2">施策内容</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">ごみ減量の徹底</td> <td colspan="2">家庭における様々な生ごみ処理の方法を、講習会や処理機器購入の補助などを通じて支援します。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業系ごみの搬入状況を確認することにより、産業廃棄物の混入を抑制し、処理施設での処理量を削減します。</td> </tr> <tr> <td>活動の支援</td> <td colspan="2">地域のごみ分別・ごみ減量活動を、職員の派遣や資材提供、情報提供等により支援します。</td> </tr> </table>			施策名	施策内容		ごみ減量の徹底	家庭における様々な生ごみ処理の方法を、講習会や処理機器購入の補助などを通じて支援します。		事業系ごみの搬入状況を確認することにより、産業廃棄物の混入を抑制し、処理施設での処理量を削減します。		活動の支援	地域のごみ分別・ごみ減量活動を、職員の派遣や資材提供、情報提供等により支援します。			
施策名	施策内容														
ごみ減量の徹底	家庭における様々な生ごみ処理の方法を、講習会や処理機器購入の補助などを通じて支援します。														
	事業系ごみの搬入状況を確認することにより、産業廃棄物の混入を抑制し、処理施設での処理量を削減します。														
活動の支援	地域のごみ分別・ごみ減量活動を、職員の派遣や資材提供、情報提供等により支援します。														
<table border="1"> <tr> <th>指標名</th> <th>現状値 2014年度 (平成26年度)</th> <th>目標値 2020年度</th> </tr> <tr> <td>1人1日あたりの最終処分量</td> <td>92g</td> <td>88g</td> </tr> <tr> <td colspan="3">指標の見方</td> </tr> <tr> <td colspan="3">ごみを処理した後の埋め立て処分する量を人口1人1日あたりに換算した数値です。</td> </tr> </table>			指標名	現状値 2014年度 (平成26年度)	目標値 2020年度	1人1日あたりの最終処分量	92g	88g	指標の見方			ごみを処理した後の埋め立て処分する量を人口1人1日あたりに換算した数値です。			
指標名	現状値 2014年度 (平成26年度)	目標値 2020年度													
1人1日あたりの最終処分量	92g	88g													
指標の見方															
ごみを処理した後の埋め立て処分する量を人口1人1日あたりに換算した数値です。															

2. ごみ処理行政の沿革

現ごみ焼却施設の建設が始まった平成6年(1994年)から示します。

表2-1(1) ごみ処理行政の沿革 (1/4)

年	体制・施設整備等	減量化・発生抑制等
1994 (平成6)	<ul style="list-style-type: none"> 新ごみ焼却施設の建設の開始 安城市ごみ減量化検討委員会から「ごみ減量化、再資源化について」の提言を受け、委員会の解散 	<ul style="list-style-type: none"> 安城市資源ごみ回収事業推進報償金を1kg当たり5円に増額 ガラス・カレット処分が有償(4円/kg) 粗大ごみの戸別収集を1個800円にて開始[9月]
1995 (平成7)	<ul style="list-style-type: none"> 安城市ポイ捨て等防止推進員設置要領の制定[11月] クズ鉄価格の逆有償の停止[6月] 安城市空き缶等散乱防止条例の制定[9月] 同年11月施行 	<ul style="list-style-type: none"> EMボカシの無料配布事業の開始[5月]
1996 平成8	<ul style="list-style-type: none"> 可燃ごみ収集業務の全面委託 リサイクルプラザの建設開始 安城市廃棄物対策推進委員会の設置 	
1997 (平成9)	<ul style="list-style-type: none"> ごみ焼却施設の完成[3月] ペットボトルを市内14店舗で回収開始[7月] 	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物処理手数料の一部改訂[7月]
1998 (平成10)	<ul style="list-style-type: none"> 「安城市リサイクルプラザ」の完成[7月] 安城市ペットボトル及び乾電池回収事業推進報償金交付要領の制定[7月] 粗大ごみの委託収集業務を不燃ごみに変更 	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトル集団回収を幼稚園、保育園、小・中学校で開始[7月] 可燃ごみの指定袋制を導入[10月]
1999 (平成11)	<ul style="list-style-type: none"> 財団法人衣浦港ポートアイランド環境事業センターで、ごみ焼却灰の埋立処理の開始[2月] 	
2000 (平成12)	<ul style="list-style-type: none"> 資源化センターの完成[3月] ごみ収集車に天然ガス車を採用[9月] 	<ul style="list-style-type: none"> 一部地域で、スプレー缶・使い捨てライターの分別回収と不燃ごみの推奨袋導入試行の開始[3月]
2001 (平成13)	<ul style="list-style-type: none"> 安城市せん定枝リサイクルプラントの設置[4月] 安城530運動事業補助金交付要綱の制定[4月] 家電リサイクル協力店認定要綱の制定[5月] アダプトプログラム実施要綱の制定[9月] 	<ul style="list-style-type: none"> 家電4品目を家電小売店で引取りを開始[4月] 家庭系廃棄物処理手数料を10kg当たり50円、事業系廃棄物処理手数料を100kg当たり840円に改定[4月] スプレー缶、使い捨てライターの分別回収と不燃ごみ袋の透明化を本格的実施[6月]
2002 (平成14)	<ul style="list-style-type: none"> 安城北部リサイクルステーションを東栄町に開設[6月] 安城南部リサイクルステーションを赤松町に開設[11月] . 	<ul style="list-style-type: none"> 安城市資源ごみ回収事業推進報償金を1kg当たり7円に増額[4月] 事業系古紙の搬入規制を開始[10月] プラスチック製容器包装の分別収集試験を開始(35町内会)[11月]
2003 (平成15)	<ul style="list-style-type: none"> 榎前町一般廃棄物最終処分場再生事業に着手[4月] 安城市ごみ運搬自動車貸出事業実施要綱の制定[5月] 桜井リサイクルステーションを桜井町に開設[6月] 作野リサイクルステーションを篠目町に開設[12月] 	<ul style="list-style-type: none"> プラスチック製容器包装の分別収集を市内全域で開始[4月] 家庭系パーソナルコンピューターのメーカー回収開始[10月]

資料：「平成29年度 清掃事業概要」(安城市環境部ごみゼロ推進課)

表 2-1(2) ごみ処理行政の沿革 (2/4)

年	体制・施設整備	減量化・発生抑制等
2004 (平成 16)	<ul style="list-style-type: none"> ・榎前一般廃棄物最終処分場再生業務の開始 [9月] 	<ul style="list-style-type: none"> ・安城市資源ごみ回収事業推進報償金を 1kg 当たり 6 円に減額 [4月] ・安城市有価物回収地区報償金を町内会の世帯数及び実施月数 6 月以上を基準に改定 [4月] ・安城市ペットボトル及び乾電池回収事業推進報償金をペットボトル 1 袋 (約 12kg) 当たり 240 円に増額、乾電池 1kg 当たり 30 円に減額 [4月] ・可燃ごみ指定袋 20ℓ サイズに持ち手加工 [5月] ・紙類のステーション回収を廃止 [6月] ・家庭系メーカー等不存在パソコンの回収・資源化の開始 [7月] ・スラグをリサイクル活用するため、中部リサイクル(株)に委託 [9月]
2005 (平成 17)	<ul style="list-style-type: none"> ・三河安城リサイクルステーションを箕輪町に開設 [10月] ・安城市空き缶等の散乱防止条例を安城市ポイ捨て及びふん害の防止に関する条例に改定 [11月] 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境戦隊サルビアン誕生 [11月]
2006 (平成 18)		<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄監視カメラを町内会へ貸し出し開始 [7月] ・再生補修家具等入札販売事業(毎月第 2 日曜)を開始 [7月]
2007 (平成 19)	<ul style="list-style-type: none"> ・安城市アダプトプログラム実施要綱の制定 [2月] ・ごみ収集車にバイオディーゼル燃料の試験使用の開始 [3月] ・御幸本町リサイクルステーションを御幸本町に開設 [4月] ・安城市生ごみ減量化モデル地域支援事業報奨金交付要綱の制定 [4月] ・安城市乾燥生ごみ資源化促進事業報奨金交付要綱の制定 [4月] ・安城市生ごみ処理機器購入補助金交付要綱の制定 [4月] 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽四輪貨物自動車の一般有料貸し出しの開始 [1月]
2008 (平成 20)	<ul style="list-style-type: none"> ・榎前町一般廃棄物最終処分場で不燃残さ埋立ての開始 [4月] ・地域クリーン推進員制度に変更 [4月] 	<ul style="list-style-type: none"> ・安城市レジ袋削減推進協議会の発足 [2月] ・生ごみ処理機購入補助金の補助率を 3分の 2 に、補助上限額をバイオ式生ごみ処理機 40,000 円、乾燥式生ごみ処理機 35,000 円、たい肥化容器 7,000 円に拡充 [4月] ・事業系廃棄物処理手数料を 10kg 当たり 100 円に改訂 [4月] ・「安城市資源回収事業推進報償金交付要綱」を改定し、報償金を 1kg 当たり 7 円(一般方式)・2 円(業者回収方式) [4月] ・古紙の分別収集試験(7 町内会)を開始 [5月] ・市内 55 店舗にてレジ袋の有料化を開始 [6月] ・環境戦隊サルビアンキャラバン事業の実施 公立幼稚園・保育園 27 園 [8月～平成 21 年 1 月]

資料：「平成 29 年度 清掃事業概要」(安城市環境部ごみゼロ推進課)

表 2-1(3) ごみ処理行政の沿革 (3/4)

年	体制・施設整備	減量化・発生抑制等
2009 (平成 21)	<ul style="list-style-type: none"> 榎前町一般廃棄物最終処分場再生業務の完了 [3月] 家電リサイクル法対象品目に、液晶・プラズマテレビ、衣類乾燥機の追加 [4月] 	<ul style="list-style-type: none"> ごみ収集日お知らせメールサービスの運営開始 [2月] 「ごみ減量 20%フォーラム」の開催 [2月] 古着の分別収集を市内全域で開始 [4月] 環境戦隊サルビアンキャラバン事業の実施 公立幼稚園・保育園 12 園 [7月～12月] 生ごみ処理機購入補助の対象に「ごみ減量容器」の追加 [8月] 可燃ごみ指定袋の容量縮小 (450・300・200→350・200・100) [10月] プラスチック製容器包装指定袋と不燃ごみ推奨袋の持ち手加工 [10月]
2010 (平成 22)	<ul style="list-style-type: none"> (株)ウィズ ウェイスト ジャパンの埋立処分場にごみ焼却灰の埋立開始 [2月] 御幸本町リサイクルステーションの開業体制を毎日に拡充 [6月] 一般廃棄物収集運搬業の許可申請に関する要綱を制定 [8月] 「安城市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例」に資源ごみ持ち去り禁止に関する条文の追加 [9月] 一般財団法人衣浦港ポートアイランド環境事業センターの埋立処分の終了 [12月] 	<ul style="list-style-type: none"> 雑がみ回収袋の販売の開始 [1月] 環境戦隊サルビアンキャラバン事業の実施 公立幼稚園・保育園 15 園 [6月～12月]
2011 (平成 23)	<ul style="list-style-type: none"> 公益財団法人愛知臨海環境整備センターにて、ごみ焼却灰の埋立処分を開始 [1月] 安城市家電リサイクル協力店認定要綱の廃止 [4月] 御幸本町リサイクルステーションの閉鎖 [7月] エコセンターあんじょうを御幸本町に開設 [8月] 作野リサイクルステーションを移転し、新安城リサイクルステーションを住吉町に開設 [9月] 	<ul style="list-style-type: none"> 資源ごみ持ち去り禁止施行 [4月] ごみ減量推進市民活動支援プログラム実施要綱の制定 [4月] 環境戦隊サルビアンキャラバン事業の実施 公立幼稚園・保育園 12 園 [7月～12月] 生ごみ処理機モニター制度の開始 [7月]
2012 (平成 24)		<ul style="list-style-type: none"> 生ごみ処理機器購入補助金の上限額、バイオ式及び乾燥式生ごみ処理機 45,000 円に増額 [7月] 清掃事業所で乾燥生ごみとごみ袋またはトレットペーパーとの交換開始 [8月] 環境戦隊サルビアンキャラバン事業の実施 公立幼稚園・保育園 13 園 [8月～1月] 15cm 以下の小型電子機器 10 品目をリサイクルステーションで回収開始 [12月]
2013 (平成 25)		<ul style="list-style-type: none"> リサイクルプラザで家庭系パソコン回収の開始 [7月] 環境戦隊サルビアンキャラバン事業を実施 公立幼稚園・保育園 16 園 [9月～12月]
2014 (平成 26)	<ul style="list-style-type: none"> 総合リサイクルステーション(エコらんど)を赤松町に開設 [1月] 安城市ごみ減量活動功労団体等表彰要綱の制定 [2月] 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃事業所での乾燥生ごみ交換を終了し、総合リサイクルステーション(エコらんど)で開始 [1月]

資料：「平成 29 年度 清掃事業概要」(安城市環境部ごみゼロ推進課)

表 2-1(4) ごみ処理行政の沿革 (4/4)

年	体制・施設整備	減量化・発生抑制等
2014 (平成 26)	<ul style="list-style-type: none"> ・安城市刈草等粉碎機購入補助金交付要綱の制定 [3月] ・一般廃棄物処理業の許可手数料の改定 [7月] 許可手数料 5,000 円、許可書再交付手数料 1,000 円に改定 ・資源化センターのペットボトル減容機の更新(処理能力 400kg/h) [8月] ・エコセンターあんじょうを大東町に移転 [10月] 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合リサイクルステーション(エコらんど)、エコセンターあんじょうにて試験的に廃食用油の受入れ開始 [8月] ・環境戦隊サルビアンキャラバン事業の実施 公立幼稚園・保育園 13 園 [9月～12月]
2015 (平成 27)	<ul style="list-style-type: none"> ・桜井リサイクルステーションを桜井町に移転 [4月] 	
2016 (平成 28)	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ減量化総合支援事業実施要綱を制定 [4月] ・安城市資源回収協力地区報償金の改定 ペットボトル回収に対する報奨金の追加 [4月] ・安城市地域クリーン推進員設置要綱の改定 ペットボトル回収に対する報奨金の削除 [4月] 	

資料：「平成 29 年度 清掃事業概要」(安城市環境部ごみゼロ推進課)

3. ごみ組成

市内6か所（街部(商店街地区)：2か所、住宅部：2か所、農村部：2か所）のごみステーションに出された可燃ごみ及び不燃ごみの袋の中身を調査した結果は、以下に示すとおりです。可燃ごみ中に16%、不燃ごみ中に11%の資源物が混入しています。

表3-1 可燃ごみ組成 [2016年度(平成28年度)]

区分		総量		資源物	
		(kg)	(-)	(kg)	(-)
ペットボトル	ペットボトル (汚れたもの含む)	4.38	0.99%	3.29	0.7%
プラスチック	容器包装プラ	45.79	10.37%	40.24	9.1%
	その他	4.27	0.97%		
その他紙	紙パック	4.25	0.96%	2.39	0.5%
	ダンボール	2.55	0.58%	2.23	0.5%
新聞紙	新聞紙(チラシ含む)	25.67	5.81%	8.07	1.8%
その他紙	雑誌	5.34	1.21%	3.62	0.8%
	雑がみ[リサイクル可]	24.04	5.44%	7.36	1.7%
	その他紙[リサイクル不可]	62.28	14.10%		
布類	古着[リサイクル可]	3.00	0.68%		
	その他布類[リサイクル不可]	18.68	4.23%	3.84	0.9%
生ごみ	生ごみ	218.41	49.46%		
その他	草	19.24	4.36%		
	木・竹	2.18	0.49%		
	不燃物/金属類	1.13	0.26%		
	不燃物/ガラス類	0.40	0.09%		
	陶磁器類・灰・土砂	0.00	0.00%		
計		441.61	100.00%	71.04	16.1%

表3-2 不燃ごみ組成 [2016年度(平成28年度)]

区分		総量		資源物	
		(kg)	(-)	(kg)	(-)
金属類	スチール缶	0.16	0.08%	0.05	0.0%
	アルミ缶	0.00	0.00%	0.07	0.0%
	鉄類	11.64	5.78%		
	その他金属	45.57	22.64%		
ガラス類	びん類	4.64	2.31%	8.98	4.5%
	その他ガラス	12.21	6.07%		
プラスチック	ペットボトル	0.36	0.18%	1.16	0.6%
	プラ製容器包装	10.31	5.12%	12.68	6.3%
硬質プラ	その他硬質プラ	73.62	36.57%		
可燃物	その他柔らかいプラ	4.06	2.02%		
その他不燃物	陶磁器類	27.96	13.89%		
	灰・土砂 他	0.83	0.41%		
	その他不燃物	2.01	1.00%		
可燃物	紙類	0.34	0.17%		
	木・竹	0.33	0.16%		
	その他可燃物	6.25	3.10%		
金属類	家電 他	1.00	0.50%		
計		201.29	100.00%	22.94	11.4%

4. 他都市との比較(システム指針)

算出根拠は、「市町村における循環型社会づくりに向けた一般廃棄物処理システム指針」(平成19年6月(平成25年4月改訂) 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 廃棄物対策課)の資料三～資料八を参考とします。

用いる数値は、「一般廃棄物処理実態調査結果(平成27年度)」(環境省)とします。

(1) 1人1日当たりごみ発生量

表4-1 1人1日当たりごみ発生量

(単位：g/人・日)

	1人1日当たりのごみ排出量	指数
安城市	954	(100)
類似都市平均	950	(100)

[算出方法]

$$\begin{aligned} & \text{1人1日当たりごみ排出量 [g/人・日]} \\ & = \text{ごみ排出量 [g]} \div \text{人口 [人]} \div 366 [\text{日}] \\ & = 64,822 \times 10^6 \div 185,615 \div 366 = 954 \end{aligned}$$

[指数化の方法]

$$\begin{aligned} & [1 - (\text{本市の数値} - \text{類似都市平均}) \div \text{類似都市平均}] \times 100 \\ & = [1 - (954 - 950) \div 950] \times 100 = 100 \end{aligned}$$

《指数の見方》

ごみ排出量が少ないほど指数は大きくなる。

(2) 廃棄物からの資源回収率（リサイクル率）

表 4-2 廃棄物からの資源回収率（リサイクル率）

(単位：%)

	資源回収率	指数
安城市	22.2	(116)
類似都市平均	19.1	(100)

[算出方法]

廃棄物からの資源回収率（リサイクル率） [%]

$$= (\text{資源化量} [t] - \text{RDF、セメント原料化等の量} [t]) \div \text{ごみ総排出量} [t]$$

$$= (14,370 - 8) \div 64,822 \times 100 = 22.2$$

[指数化の方法]

本市の数値 ÷ 類似都市平均 × 100

$$= 22.2 \div 19.1 \times 100 = 116$$

《指数の見方》

資源回収率が高いほど指数は大きくなる。

(3) 最終処分される割合

表 4-3 最終処分される割合

(単位：%)

	最終処分率	指数
安城市	9.6	(83)
類似都市平均	8.2	(100)

[算出方法]

最終処分される割合 [%] = 最終処分量 [t] ÷ ごみ総排出量 [t]

$$= 6,250 \div 64,822 \times 100 = 9.6$$

[指数化の方法]

[1 - (本市の数値 - 類似都市平均) ÷ 類似都市平均] × 100

$$= [1 - (9.6 - 8.2) \div 8.2] \times 100 = 83$$

《指数の見方》

最終処分率が低いほど指数は大きくなる。

(4) 人口1人当たり年間処理経費

表 4-4 人口1人当たり年間処理経費

(単位：円/人・年)

	1人当たりの 年間処理経費	指数
安城市	12,321	(55)
類似都市平均	8,521	(100)

[算出方法]

1人当たり年間処理経費[円/人・年]

$$= (\text{処理及び維持管理費(人件費+処理費+委託費+調査研究費)} [\text{円}]) \div \text{人口} [\text{人}]$$

$$= (347,759 \text{ 千} + 473,163 \text{ 千} + 1,466,193 \text{ 千} + 0) \div 185,615 = 12,321$$

[指数化の方法]

$$[1 - (\text{本市の数値} - \text{類似都市平均}) \div \text{類似都市平均}] \times 100$$

$$= [1 - (12,321 - 8,521) \div 8,521] \times 100 = 55$$

《指数の見方》

ごみ処理経費が少ないほど指数は大きくなる。

(5) 最終処分減量に要する費用*

表 4-5 最終処分減量に要する費用

(単位：円/t)

	最終処分減量に 要する費用	指数
安城市	36,490	(52)
類似都市平均	24,629	(100)

[算出方法]

最終処分減量に要する費用[円/t]

$$= (\text{処理及び維持管理費(人件費(最終処分除く)+処理費(最終処分費除く)+委託費(最終処分費除く)}) \div (\text{ごみ総排出量} [\text{t}] - \text{最終処分量} [\text{t}]))$$

$$= (346,459 \text{ 千} + 432,442 \text{ 千} + 1,358,402 \text{ 千}) \div (64,822 - 6,250) = 36,490$$

[指数化の方法]

$$[1 - (\text{本市の数値} - \text{類似都市平均}) \div \text{類似都市平均}] \times 100$$

$$= [1 - (36,490 - 24,629) \div 24,629] \times 100 = 52$$

《指数の見方》

最終処分減量に要する費用が少ないほど指数は大きくなる。

※最終処分減量に要する費用：最終処分までに処分量を減量するための処理に要した費用
(収集運搬、中間処理、資源化に要する費用)

表4-6(1) 類似都市との比較 [2015年度(平成27年度)]

自治体名	一人一日当たり ごみ総排出量 (g/人・日)	廃棄物からの 資源回収率 (%)	最終処分される 割合 (%)	人口一人当たり 年間処理経費 (円/人・年)	最終処分減量 に要する費用 (円/t)
日立市	938	21.6	3.2	7,542	22,089
ひたちなか市	1,034	17.2	3.5	4,867	12,176
足利市	1,079	14.0	11.7	9,865	22,249
栃木市	942	13.1	11.8	10,046	30,888
小山市	931	18.6	8.7	2,847	9,159
高岡市	984	20.9	10.2	7,252	20,192
上田市	786	23.8	4.4	5,511	17,131
大垣市	936	21.4	4.2	10,498	27,471
磐田市	757	17.6	7.2	6,058	22,173
豊川市	1,033	26.8	3.8	10,350	26,618
安城市	954	22.2	9.6	12,321	36,490
西尾市	1,065	13.5	11.9	11,186	29,060
小牧市	844	29.1	2.7	5,494	18,289
松阪市	978	14.0	13.5	9,219	28,119
今治市	982	13.1	16.0	14,754	47,336
平均	950	19.1	8.2	8,521	24,629
最大	1,079	29.1	16.0	14,754	47,336
最小	757	13.1	2.7	2,847	9,159

表4-6(2) 近隣9市との比較 [2015年度(平成27年度)]

自治体名	一人一日当たり ごみ総排出量 (g/人・日)	廃棄物からの 資源回収率 (%)	最終処分される 割合 (%)	人口一人当たり 年間処理経費 (円/人・年)	最終処分減量 に要する費用 (円/t)
岡崎市	994	21.3	5.2	9,215	25,867
碧南市	1,067	18.7	10.8	4,991	13,618
刈谷市	1,017	18.6	8.4	4,893	12,988
豊田市	973	20.5	6.6	11,800	32,249
安城市	957	22.2	9.6	12,321	36,490
西尾市	1,068	13.5	11.9	11,186	29,060
知立市	941	16.2	8.8	5,566	17,263
高浜市	906	13.8	10.3	5,420	17,863
みよし市	964	20.3	11.3	9,450	30,283
平均	987	18.3	9.2	8,316	23,965
最大	1,068	22.2	11.9	12,321	36,490
最小	906	13.5	5.2	4,893	12,988

表4-6(3) 愛知県内市との比較 [2015年度(平成27年度)]

自治体名	一人一日当たり ごみ総排出量 (g/人・日)	廃棄物からの 資源回収率 (%)	最終処分される 割合 (%)	人口一人当たり 年間処理経費 (円/人・年)	最終処分減量 に要する費用 (円/t)
名古屋市	930	24.6	6.3	12,059	37,094
豊橋市	1,039	18.0	7.3	11,094	30,524
岡崎市	994	21.3	5.2	9,215	25,867
一宮市	869	16.2	12.1	7,440	23,588
瀬戸市	858	15.7	11.9	3,428	12,427
半田市	1,023	23.6	12.3	8,099	24,749
春日井市	869	19.8	6.4	13,301	44,075
豊川市	1,036	26.8	3.8	10,350	26,618
津島市	803	13.9	6.4	4,768	15,872
碧南市	1,067	18.7	10.8	4,991	13,618
刈谷市	1,017	18.6	8.4	4,893	12,988
豊田市	973	20.5	6.6	11,800	32,249
安城市	957	22.2	9.6	12,321	36,490
西尾市	1,068	13.5	11.9	11,186	29,060
蒲郡市	1,196	19.2	10.1	13,778	33,194
犬山市	887	22.2	11.1	10,760	35,163
常滑市	1,166	18.8	13.1	4,581	11,679
江南市	764	25.7	7.8	5,381	19,386
小牧市	846	29.1	2.7	5,494	18,289
稲沢市	823	22.0	9.1	9,409	32,332
新城市	965	26.0	11.5	12,513	37,833
東海市	907	21.6	8.6	9,665	31,151
大府市	889	24.7	10.6	4,318	14,887
知多市	852	13.0	13.9	18,954	66,288
知立市	941	16.2	8.8	5,566	17,263
尾張旭市	876	23.7	10.7	4,147	14,446
高浜市	906	13.8	10.3	5,420	17,863
岩倉市	708	29.0	2.3	4,889	19,310
豊明市	829	24.3	10.3	4,872	17,963
日進市	921	26.4	10.2	4,387	14,534
田原市	1,093	30.8	6.9	20,180	51,788
愛西市	763	12.7	6.4	4,884	18,746
清須市	740	17.1	14.1	14,238	49,396
北名古屋市	888	16.4	10.5	13,283	45,775
弥富市	816	12.7	6.6	4,011	13,932
みよし市	964	20.3	11.3	9,450	30,283
あま市	705	9.8	9.9	9,544	40,974
長久手市	877	17.9	11.5	3,982	14,061
東郷町	885	16.4	11.6	3,650	12,792
豊山町	1,205	7.4	10.1	17,416	44,025
大口町	1,051	35.7	6.6	4,295	11,720
扶桑町	724	21.3	7.7	3,835	15,402
大治町	722	15.4	6.3	4,845	19,616
蟹江町	851	15.3	6.2	4,222	14,489
飛島村	1,552	23.0	6.3	11,984	22,566
阿久比町	833	17.5	10.9	8,361	30,855
東浦町	785	18.6	11.3	4,534	17,838
南知多町	1,498	10.2	16.3	3,789	4,892
美浜町	1,269	11.5	15.4	12,307	31,425
武豊町	992	22.1	12.3	4,823	14,573
幸田町	696	32.2	3.4	8,629	31,982
設楽町	821	11.3	12.3	20,889	79,460
東栄町	806	7.8	12.5	106	410
豊根村	808	11.9	11.7	20,524	78,805
平均	932	19.3	9.4	8,571	27,085
最大	1,552	35.7	16.3	20,889	79,460
最小	696	7.4	2.3	106	410

5. ごみ発生量及びごみ排出量の推計

本項目は、現行施策を保持した場合のごみ排出量を推計するものです。

1-1 推計方法

推計手順は図5-1のとおりです。推計するものとしては、家庭系ごみ原単位（1人1日平均発生量）及び事業系ごみ日量であり、原則としてトレンド法(時系列分析*)により行います。

家庭系ごみ量は、家庭系ごみ原単位の推計値に将来人口を乗じて求めます。この家庭系ごみ量と事業系ごみ量との推計値を合計し現状のまま推移した場合のごみ発生量とします。

次に、ごみ排出抑制等の減量目標を設定し、この減量目標を達成した際のごみ排出量とします。

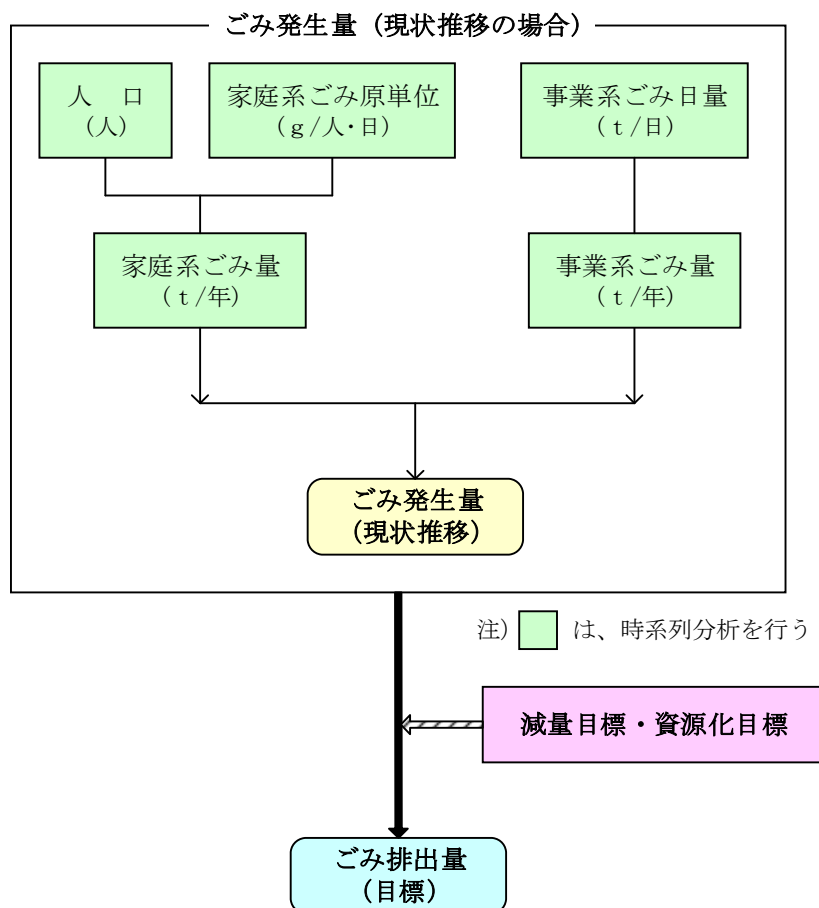


図5-1 推計の手順

*：時系列分析

時系列分析とは、時間の経過に従って変化する現象を、一定の規則性を持つ傾向線として近似的に一次関数、指数関数等によってモデル化し、これを延長することにより、将来の一定期間内における変化の状態を数量的に把握する予測手法であり、最もよく用いられています。

ここでは、以下に示す7つの線形により、時系列分析を行うこととします。

推計に用いる傾向線

名 称	推 定 式	式の傾向及び特徴
直線式	$y = a x + b$	最も基本となる式であり、傾きが一定で直線的に推移する式。直線的に増加または減少することから、長期の予定では不自然な傾向となってしまうこともあり、予測値の妥当性を判断する必要がある。
2次関数式	$y = a x + b x^2 + c$	増減の大きな傾向曲線を示す場合が多く、実績値によっては、傾向曲線の中に極値を含み、増減の逆転が生じる場合もある。従って、人口などの推計では整合がよくないが、ごみの推計では採用される場合もある。
対数式	$y = a \cdot \log(x) + b$	徐々に増減率が収束していくような推移となる推計式である。長期の予測でも実績値との乖離が少なく、比較的採用しやすい式である。
べき乗式	$y = x^a \cdot b + c$	指数式と同様に、徐々に増減率が大きくなっていく式であるが、推計式の特性上、実績値が減少傾向となっている場合には推計結果が得られないことがある。
指数式	$y = b x^a$	実績値にばらつきが少ない場合に良く適合する式であり、多くの場合において実績値の増減率が徐々に大きくなることから、長期的な予測では推計地の妥当性について判断する必要がある。
修正指数式	$y = K - b \cdot a^x$	特定値に向って収束していく傾向がある場合に当てはまるが、上・下限値であるKが求められない場合発散してしまうため整合しない場合がある。
ロジスティック式	$y = K / (1 + b \exp(-a x))$	生物の個体数の変化を表すモデルとして考案された式であり、成長曲線とも呼ばれる。 一般的に、飽和値Kはその環境下で存在できる最大値を示す定数であり、yが増加するにつれ、増加率は抑制され、最終的には飽和値に収束していく。

備考) y：計画年次における数値
x：計画年次
a, b, c：定数
K：飽和数値

(1) 人口の推計

人口の実績は、増加傾向を示しています。時系列分析の結果も増加傾向を示しています。国立社会保障・人口問題研究所の予測は、緩やかな増加を示しています。本計画では、両線形のほぼ中間を示す「第8次安城市総合計画」の値を採用します。

表 5-1 人口の実績及び推計

【実績値】		予 測 式	
年度	人口	区 分	
2007	177,406	直線	$Y=(985.24)X+(159060)$
2008	179,355	2次関数	$Y=(5.0038)X^2+(750.06)X+(161782)$
2009	179,758	対数	$Y=(22867)\log X+(110197)$
2010	180,751	べき乗	$Y=(122689)X^{(0.12555)}$
2011	181,740	指数	$Y=(160451)*(1.0054)^X$
2012	182,371	修正指数	$Y=(342615)-(185289)*(0.99387)^X$
2013	183,552	ロジスティック	$Y=(264196)/(1+(0.67748)*\exp(-0.017437X))$
2014	184,780	総合計画	
2015	185,615		Y: 予測値 X: 年度
2016	186,806		

注) 空欄は推計式が適用できず計算不能のため推計結果無し。

【推計値】								
年度	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	修正指数	ロジスティック	総合計画
2017	187,632	187,742	187,195	187,243	187,691	187,568	187,561	
2018	188,617	188,788	187,970	188,042	188,709	188,518	188,507	
2019	189,603	189,843	188,720	188,818	189,732	189,461	189,445	
2020	190,588	190,908	189,446	189,572	190,760	190,400	190,376	187,615
2021	191,573	191,983	190,150	190,306	191,795	191,332	191,300	
2022	192,558	193,069	190,832	191,020	192,835	192,259	192,217	
2023	193,544	194,164	191,495	191,717	193,880	193,180	193,126	
2024	194,529	195,269	192,140	192,396	194,931	194,095	194,028	
2025	195,514	196,385	192,766	193,059	195,988	195,005	194,923	189,902
2026	196,499	197,510	193,376	193,707	197,051	195,909	195,811	
2027	197,485	198,645	193,970	194,339	198,119	196,808	196,691	
2027-2017	9,853	10,903	6,775	7,096	10,428	9,240	9,130	

注) 網掛けが採用値。空欄は推計結果が0以下若しくは計算不能。

相関	0.995915	0.995997	0.993927	0.994282	0.995865	0.995894	0.995880
----	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------

注) 相関は相関係数を示し、1.0に近いほど実績と推計値の計算上の相関が高いことを示す。相関は参考であり、推計値の採否は実績傾向を確認して行う。

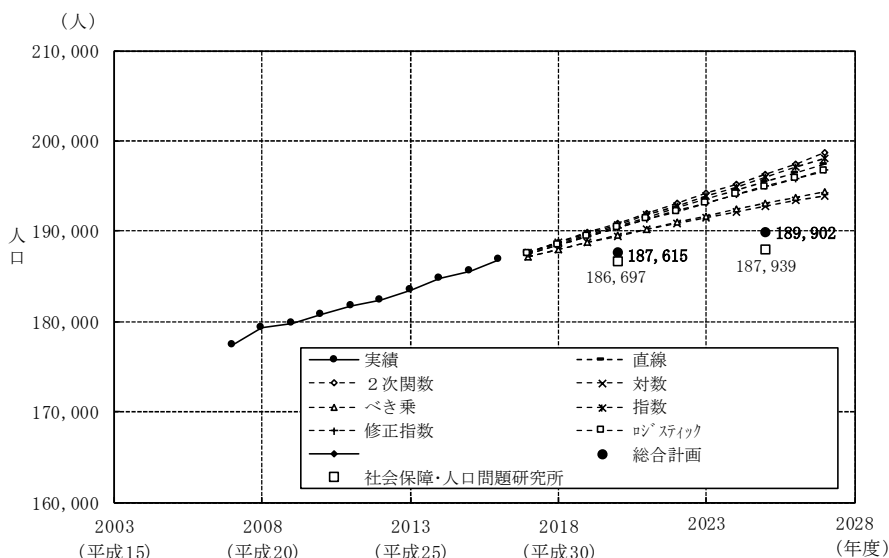


図 5-2 人口の推移

(2) 家庭系ごみの推計

家庭系ごみ発生量の実績は、表 5-2 のように整理し、以下に示すように推計します。

《推計方法》

- ① 可燃ごみに可燃系資源(古紙、古着、ペットボトル、プラ容器包装、廃食用油及びせん定枝)を含めた可燃系ごみを時系列分析により予測します。

$$\text{可燃系ごみ} = \text{可燃ごみ} + \text{可燃系資源}$$

- ② 可燃系資源を時系列分析により予測します。

$$\text{可燃系資源} = \text{古紙} + \text{古着} + \text{古布} + \text{ペットボトル} + \text{プラ容器包装} + \text{廃食用油} + \text{せん定枝}$$

- ③ 可燃ごみは、可燃系ごみからの可燃系資源の差分とします。

$$\text{可燃ごみ} = \text{可燃系ごみ} - \text{可燃系資源}$$

- ④ 不燃ごみに不燃系資源(空きびん、空き缶、乾電池、蛍光管及び硬質プラ)を含めた不燃系ごみを時系列分析により予測します。

$$\text{不燃系ごみ} = \text{不燃ごみ} + \text{不燃系資源}$$

- ⑤ 不燃系資源を時系列分析により予測します。

$$\text{不燃系資源} = \text{空きびん} + \text{空き缶} + \text{乾電池} + \text{蛍光管} + \text{硬質プラ}$$

- ⑥ 不燃ごみは、不燃系ごみからの不燃系資源の差分とします。

$$\text{不燃ごみ} = \text{不燃系ごみ} - \text{不燃系資源}$$

- ⑦ 粗大ごみ、家電、それぞれ時系列分析により予測します。

表5-2 家庭系ごみ発生量の実績

区分				年度	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)		
(1)	人口		人		182,371	183,552	184,780	185,615	186,806		
(2)	家庭系ごみ	可燃ごみ	収集	t/年	29,110	29,047	29,174	29,403	29,289		
(3)			直接搬入	t/年	1,167	1,270	1,247	1,431	1,461		
(4)		新聞紙	収集	t/年	613	572	511	457	399		
(5)			直接搬入	t/年	1,437	1,382	1,292	1,215	1,141		
(6)			集団資源回収	t/年	2,278	2,155	2,041	1,901	1,790		
(7)		雑誌	収集	t/年	375	343	279	252	220		
(8)			直接搬入	t/年	1,169	1,109	1,053	1,018	919		
(9)			集団資源回収	t/年	1,102	1,041	987	927	826		
(10)		雑がみ	収集	t/年	455	434	411	381	344		
(11)			直接搬入	t/年	458	492	504	515	495		
(12)			集団資源回収	t/年	15	20	29	60	60		
(13)		ダンボール	収集	t/年	256	253	222	213	213		
(14)			直接搬入	t/年	753	726	699	665	663		
(15)			集団資源回収	t/年	672	673	650	610	590		
(16)		牛乳パック	収集	t/年	4	3	3	2	2		
(17)			直接搬入	t/年	13	14	13	13	12		
(18)			集団資源回収	t/年	44	41	40	37	36		
(19)		シュレッダー処理紙	直接搬入	t/年	0	1	7	10	10		
(20)			収集	t/年	64	60	57	56	50		
(21)			直接搬入	t/年	338	367	374	391	365		
(22)		古着	直接搬入	t/年	79	78	72	68	60		
(23)			ペットボトル	t/年	417	434	442	422	429		
(24)			プラ容器包装	t/年	1,269	1,205	1,184	1,202	1,167		
(25)		廃食用油	直接搬入	t/年	0	0	1	2	2		
(26)			せん定枝	t/年	483	606	737	765	701		
(27)			計(可燃系資源ごみ)	t/年	12,294	12,009	11,608	11,182	10,494		
(28)				g/人・日	184.7	179.2	172.1	164.6	153.9		
(29)		計(可燃ごみ+可燃系資源ごみ)			t/年	42,571	42,326	42,029	42,016	41,244	
(30)			g/人・日	639.5	631.8	623.2	618.5	604.9			
(31)	家庭系ごみ	不燃ごみ	収集	t/年	1,029	1,008	982	999	881		
(32)			直接搬入	t/年	25	24	19	20	26		
(33)		空きびん	収集	t/年	1,217	1,203	1,233	1,195	1,188		
(34)			直接搬入	t/年	6	6	6	4	0		
(35)			集団資源回収	t/年	3	2	3	3	2		
(36)		空き缶	収集	t/年	379	376	360	361	347		
(37)			直接搬入	t/年	4	2	0	0	0		
(38)			集団資源回収	t/年	24	23	24	24	23		
(39)		乾電池	収集	t/年	52	52	46	48	47		
(40)		蛍光管	収集	t/年	24	25	22	21	19		
(41)		硬質プラ	直接搬入	t/年	0	8	26	28	27		
(42)		計(不燃系資源ごみ)			t/年	1,709	1,697	1,720	1,684	1,653	
(43)				g/人・日	25.7	25.3	25.5	24.8	24.2		
(44)		計(不燃ごみ+不燃系資源ごみ)			t/年	2,763	2,729	2,721	2,703	2,560	
(45)				g/人・日	41.5	40.7	40.3	39.8	37.5		
(46)		粗大系ごみ	粗大ごみ	収集	t/年	87	107	125	92	89	
(47)				直接搬入	t/年	2,176	2,384	2,176	2,265	2,233	
(48)			計(粗大ごみ)			t/年	2,263	2,491	2,301	2,357	2,322
(49)					g/人・日	34.0	37.2	34.1	34.7	34.1	
(50)			家電	直接搬入	t/年	0	17	65	69	12	
(51)	g/人・日	0.0			0.3	1.0	1.0	0.2			

表 5-3 時系列分析の選定の考え方

項 目	選定の考え方
可燃系ごみ	<p>可燃系ごみ原単位の実績は、減少傾向を示しています。2016 年度(平成 28 年度)の減少が大きく、2016 年度(平成 28 年度)値を除き、2012 年度(平成 24 年度)～2015 年度(平成 27 年度)の実績を基に時系列分析を行います。</p> <p>将来、最も緩やかな減少傾向を示す「べき乗式」を、将来を示す線形として採用し、このまま減少し続けるとは考え難いことから、5年後の 2022 年度以降、横ばいとします。</p>
可燃系資源	<p>可燃系資源原単位の実績も、減少傾向を示しています。2016 年度(平成 28 年度)の減少が大きく、2016 年度(平成 28 年度)値を除き、2012 年度(平成 24 年度)～2015 年度(平成 27 年度)の実績を基に時系列分析を行います。</p> <p>将来、最も緩やかな減少傾向を示す「べき乗式」を、将来を示す線形として採用し、このまま減少し続けるとは考え難いことから、5年後の 2022 年度以降、横ばいとします。</p>
不燃系ごみ	<p>不燃系ごみ原単位の実績は、減少傾向を示しています。2016 年度(平成 28 年度)の減少が大きく、2016 年度(平成 28 年度)値を除き、2012 年度(平成 24 年度)～2015 年度(平成 27 年度)の実績を基に時系列分析を行います。</p> <p>将来、最も緩やかな減少傾向を示す「べき乗式」を、将来を示す線形として採用し、このまま減少し続けるとは考え難いことから、5年後の 2022 年度以降、横ばいとします。</p>
不燃系資源	<p>不燃系資源原単位の実績は、減少傾向を示しています。2016 年度(平成 28 年度)の減少が大きく、2016 年度(平成 28 年度)を除き、2012 年度(平成 24 年度)～2015 年度(平成 27 年度)の実績を基に時系列分析を行います。</p> <p>将来、最も緩やかな減少傾向を示す「べき乗式」を、将来を示す線形として採用し、このまま減少し続けるとは考え難いことから、5年後の 2022 年度以降、横ばいとします。</p>
粗大ごみ	<p>粗大ごみ原単位の実績は、減少傾向を示しています。</p> <p>将来、最も緩やかな減少傾向を示す「べき乗式」を、将来を示す線形として採用し、このまま減少し続けるとは考え難いことから、5年後の 2022 年度以降、横ばいとします。</p>
家電	<p>家電原単位の実績は、変動が大きく、2016 年度(平成 28 年度)値一定とします。</p>

表 5-4 家庭系可燃系ごみ原単位の実績及び推計

【実績値】

年度	原単位
2012	639.5
2013	631.8
2014	623.2
2015	618.5
2016	(604.9)

区 分	予 測 式
直線	$Y = (-7.1600)X + (810.83)$
2次関数	$Y = (0.75000)X^2 + (-45.410)X + (1297.6)$
対数	$Y = (-182.63) \log X + (1219.5)$
べき乗	$Y = (1608.7)X^{(-0.29043)}$
指数	$Y = (839.86) * (0.98868)^X$
修正指数	
ロジスティック	
べき乗2	$[べき乗] - 6.3$

Y : 予測値 X : 年 度

注) 空欄は推計式が適用できず計算不能のため推計結果無し。

【推計値】

年度	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	修正指数	ロジスティック	べき乗2
2017	603.2	611.4	604.6	605.0	603.7			598.7
2018	596.0	610.3	598.4	599.1	596.8			592.8
2019	588.9	610.6	592.4	593.4	590.1			587.1
2020	581.7	612.5	586.6	587.9	583.4			581.6
2021	574.6	615.8	581.0	582.7	576.8			576.4
2022	567.4	620.6	575.5	577.7	570.2			571.4
2023	560.2	627.0	570.2	572.8	563.8			571.4
2024	553.1	634.8	565.1	568.2	557.4			571.4
2025	545.9	644.2	560.1	563.7	551.1			571.4
2026	538.8	655.0	555.2	559.3	544.9			571.4
2027	531.6	667.3	550.5	555.1	538.7			571.4
2027 -2017	-71.6	55.9	-54.1	-49.9	-65.0			-27.3

注) 網掛けが採用値。空欄は推計結果が0以下若しくは計算不能。

相 関	0.993429	0.997780	0.994889	0.995159	0.993777			
-----	----------	----------	----------	----------	----------	--	--	--

注) 相関は相関係数を示し、1.0に近いほど実績と推計値の計算上の相関が高いことを示す。
相関は参考であり、推計値の採否は実績傾向を確認して行う。

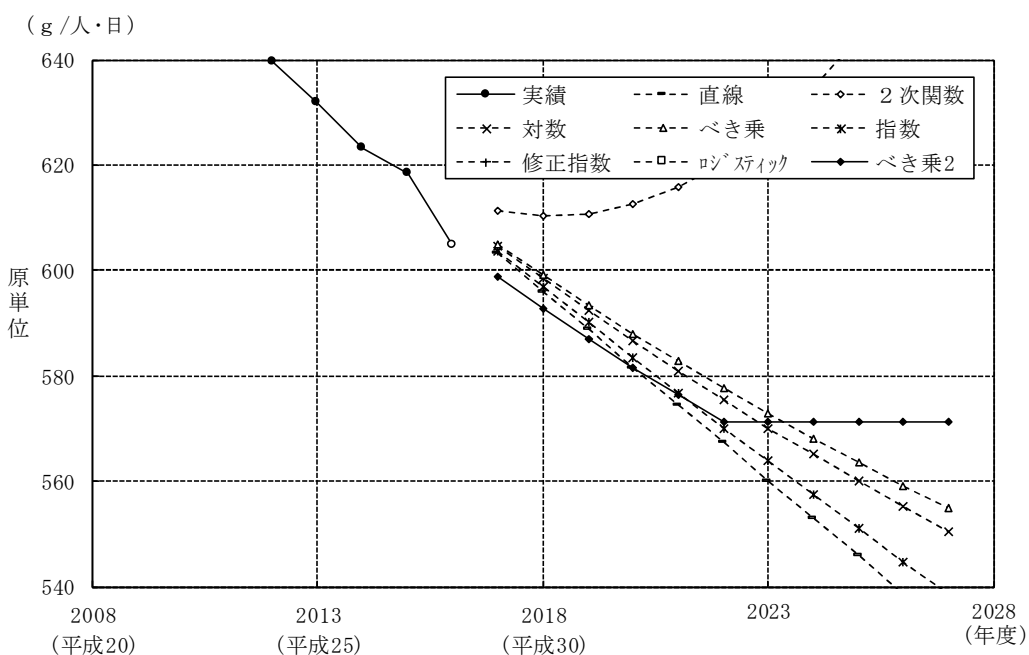


図 5-3 家庭系可燃系ごみ原単位の推移

表 5-5 家庭系可燃系資源原単位の実績及び推計

【実績値】

年度	原単位
2012	184.7
2013	179.2
2014	172.1
2015	164.6
2016	(153.9)

区 分	予 測 式
直線	$Y = (-6.7400)X + (347.02)$
2次関数	$Y = (-0.50000)X^2 + (18.760)X + (22.520)$
対数	$Y = (-171.44) \log X + (730.21)$
べき乗	$Y = (4201.5)X^{(-0.98170)}$
指数	$Y = (0.96213) * (468.34)^X$
修正指数	$Y = (221.16) - (1.0592) * (1.1588)^X$
ロジスティック	$Y = (210.58) / (1 + (0.00054093) * \exp(-(-0.23145)X))$
べき乗2	[べき乗]-5.6

Y : 予測値 X : 年 度

注) 空欄は推計式が適用できず計算不能のため推計結果無し。

【推計値】

年度	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	修正指数	ロジスティック	べき乗2
2017	151.6	146.1	152.9	154.1	152.9	145.1	145.8	148.5
2018	144.8	135.3	147.1	149.0	147.1	133.1	134.9	143.4
2019	138.1	123.6	141.5	144.3	141.5	119.1	123.4	138.7
2020	131.3	110.8	136.1	139.9	136.2	102.9	111.4	134.3
2021	124.6	97.1	130.8	135.7	131.0	84.1	99.2	130.1
2022	117.9	82.4	125.7	131.8	126.0	62.3	87.2	126.2
2023	111.1	66.6	120.7	128.1	121.3	37.1	75.7	126.2
2024	104.4	49.9	115.9	124.6	116.7	7.9	64.8	126.2
2025	97.6	32.1	111.2	121.3	112.2		54.9	126.2
2026	90.9	13.4	106.6	118.2	108.0		46.1	126.2
2027	84.2		102.1	115.2	103.9		38.3	126.2
2027 -2017	-67.4		-50.8	-38.9	-49.0		-107.5	-22.3

注) 網掛けが採用値。空欄は推計結果が0以下若しくは計算不能。

相関	0.997649		0.996328	0.994843	0.996453		0.999826	
----	----------	--	----------	----------	----------	--	----------	--

注) 相関は相関係数を示し、1.0に近いほど実績と推計値の計算上の相関が高いことを示す。
相関は参考であり、推計値の採否は実績傾向を確認して行う。

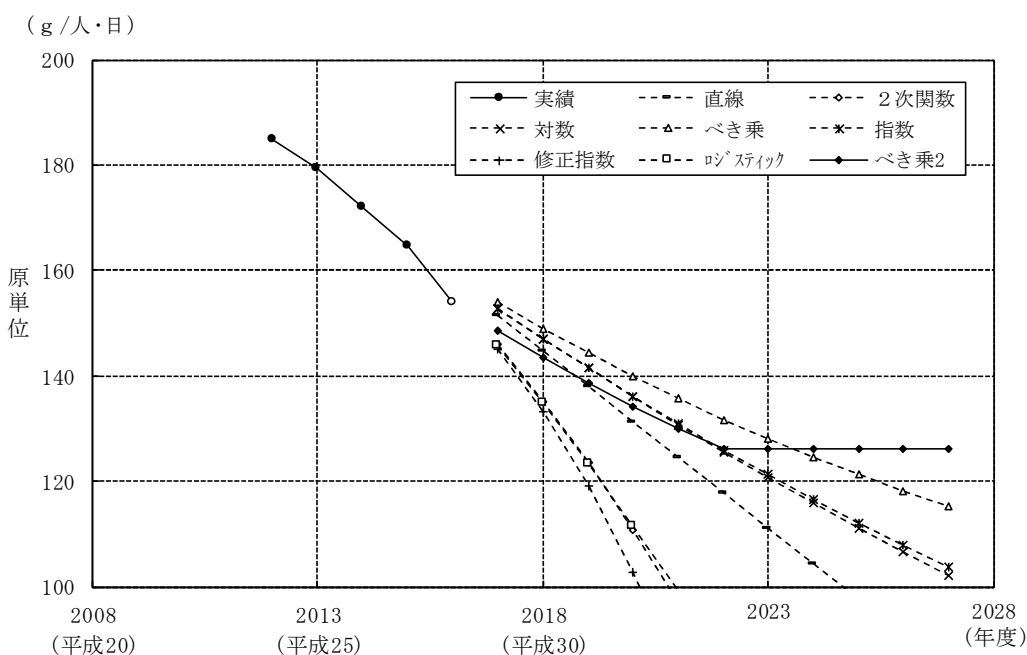


図 5-4 家庭系可燃系資源原単位の推移

表5-6 家庭系不燃系ごみ原単位の実績及び推計

【実績値】

年度	原単位
2012	41.5
2013	40.7
2014	40.3
2015	39.8
2016	(37.5)

区 分	予 測 式
直線	$Y = (-0.55000)X + (54.600)$
2次関数	$Y = (-4.3750)X + (0.075000)X^2 + (103.28)$
対数	$Y = (-14.036) \log X + (86.021)$
べき乗	$Y = (124.13)X^{(-0.34540)}$
指数	$Y = (0.98656) * (57.294)^X$
修正指数	
ロジスティック	
べき乗2	$[べき乗] - 1.8$

Y：予測値 X：年 度

注) 空欄は推計式が適用できず計算不能のため推計結果無し。

【推計値】

年度	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	修正指数	ロジスティック	べき乗2
2017	38.6	39.5	38.8	38.8	38.7			37.0
2018	38.1	39.5	38.3	38.3	38.2			36.5
2019	37.5	39.7	37.8	37.9	37.7			36.1
2020	37.0	40.1	37.4	37.5	37.2			35.7
2021	36.4	40.6	36.9	37.1	36.7			35.3
2022	35.9	41.2	36.5	36.7	36.2			34.9
2023	35.3	42.0	36.1	36.4	35.7			34.9
2024	34.8	43.0	35.7	36.0	35.2			34.9
2025	34.2	44.1	35.3	35.7	34.7			34.9
2026	33.7	45.3	35.0	35.3	34.3			34.9
2027	33.1	46.7	34.6	35.0	33.8			34.9
2027 -2017	-5.5	7.2	-4.2	-3.8	-4.9			-2.1

注) 網掛けが採用値。空欄は推計結果が0以下若しくは計算不能。

相関	0.988627	0.995953	0.990618	0.991337	0.989460			
----	----------	----------	----------	----------	----------	--	--	--

注) 相関は相関係数を示し、1.0に近いほど実績と推計値の計算上の相関が高いことを示す。
相関は参考であり、推計値の採否は実績傾向を確認して行う。

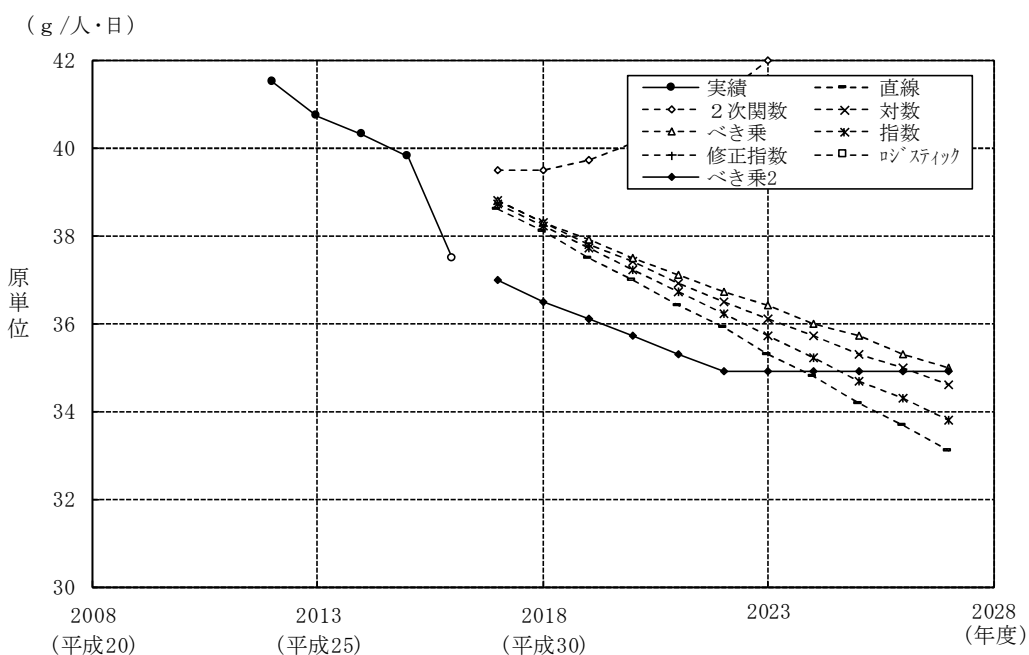


図5-5 家庭系不燃系ごみ原単位の推移

表 5-7 家庭系不燃系資源原単位の実績及び推計

【実績値】

年度	原単位
2012	25.7
2013	25.3
2014	25.5
2015	24.8
2016	(24.2)

区 分	予 測 式
直線	$Y = (-0.25000)X + (31.700)$
2次関数	$Y = (-0.075000)X^2 + (3.5750)X + (-16.975)$
対数	$Y = (-6.3375) \log X + (45.844)$
べき乗	$Y = (57.096)X^{(-0.25111)}$
指数	$Y = (0.99014) * (32.601)^X$
修正指数	
ロジスティック	
べき乗2	$[べき乗] - 0.5$

Y : 予測値 X : 年 度

注) 空欄は推計式が適用できず計算不能のため推計結果無し。

【推計値】

年度	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	修正指数	ロジスティック	べき乗2
2017	24.5	23.6	24.5	24.5	24.5			24.0
2018	24.2	22.8	24.3	24.3	24.2			23.8
2019	24.0	21.8	24.1	24.1	24.0			23.6
2020	23.7	20.6	23.9	23.9	23.7			23.4
2021	23.5	19.3	23.7	23.7	23.5			23.2
2022	23.2	17.9	23.5	23.6	23.3			23.1
2023	23.0	16.3	23.3	23.4	23.0			23.1
2024	22.7	14.5	23.1	23.2	22.8			23.1
2025	22.5	12.6	23.0	23.1	22.6			23.1
2026	22.2	10.6	22.8	22.9	22.4			23.1
2027	22.0	8.4	22.6	22.8	22.2			23.1
2027 -2017	-2.5	-15.2	-1.9	-1.7	-2.3			-0.9

注) 網掛けが採用値。空欄は推計結果が0以下若しくは計算不能。

相 関	0.835658	0.865219	0.831748	0.831339	0.835333			
-----	----------	----------	----------	----------	----------	--	--	--

注) 相関は相関係数を示し、1.0に近いほど実績と推計値の計算上の相関が高いことを示す。
相関は参考であり、推計値の採否は実績傾向を確認して行う。

(g/人・日)

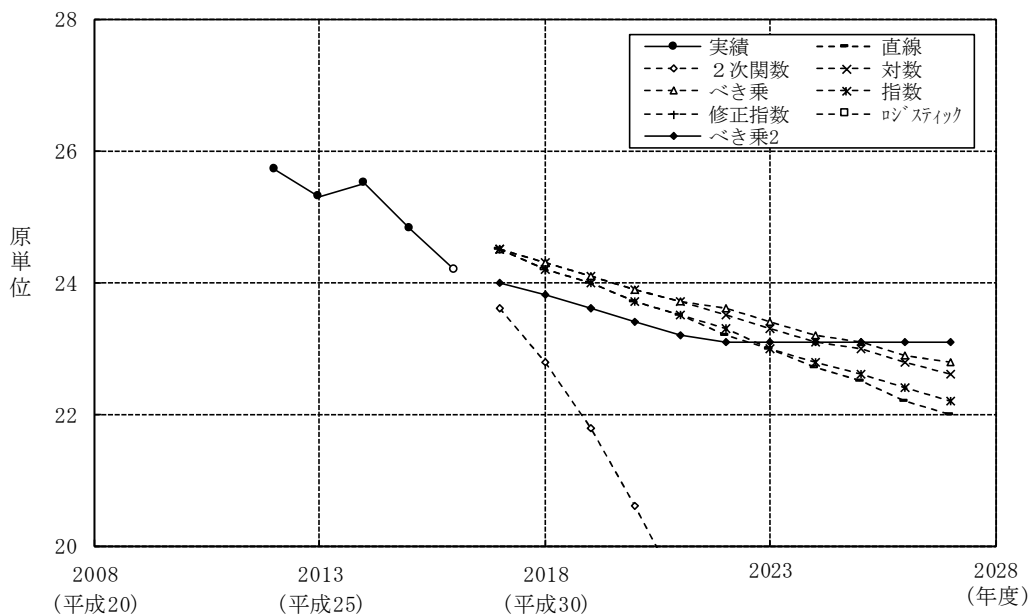


図 5-6 家庭系不燃系資源原単位の推移

表 5-8 家庭系粗大ごみ原単位の実績及び推計

【実績値】

年度	原単位
2012	34.0
2013	37.2
2014	34.1
2015	34.7
2016	34.1

区 分	予 測 式
直線	$Y=(-0.48000)X+(44.720)$
2次関数	$Y=(29.234)X^2+(-0.57143)X+(-340.42)$
対数	$Y=(-12.047)\log X+(71.473)$
べき乗	$Y=(108.97)X^{(-0.37428)}$
指数	$Y=(0.98520)*(47.462)^X$
修正指数	
ロジスティック	
べき乗2	$[べき乗]+2.8$

Y：予測値 X：年 度

注) 空欄は推計式が適用できず計算不能のため推計結果無し。

【推計値】

年度	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	修正指数	ロジスティック	べき乗2
2017	30.8	26.8	30.9	30.9	30.8			33.7
2018	30.3	22.3	30.5	30.5	30.3			33.3
2019	29.8	16.7	30.1	30.1	29.9			32.9
2020	29.4	9.9	29.7	29.8	29.4			32.6
2021	28.9	2.0	29.3	29.4	29.0			32.2
2022	28.4		29.0	29.1	28.6			31.9
2023	27.9		28.6	28.8	28.2			31.9
2024	27.4		28.3	28.5	27.7			31.9
2025	27.0		28.0	28.2	27.3			31.9
2026	26.5		27.7	27.9	26.9			31.9
2027	26.0		27.3	27.7	26.5			31.9
2027 -2017	-4.8		-3.6	-3.2	-4.3			-1.8

注) 網掛けが採用値。空欄は推計結果が0以下若しくは計算不能。

相関	0.459925		0.444834	0.450512	0.465836			
----	----------	--	----------	----------	----------	--	--	--

注) 相関は相関係数を示し、1.0に近いほど実績と推計値の計算上の相関が高いことを示す。
相関は参考であり、推計値の採否は実績傾向を確認して行う。

(g/人・日)

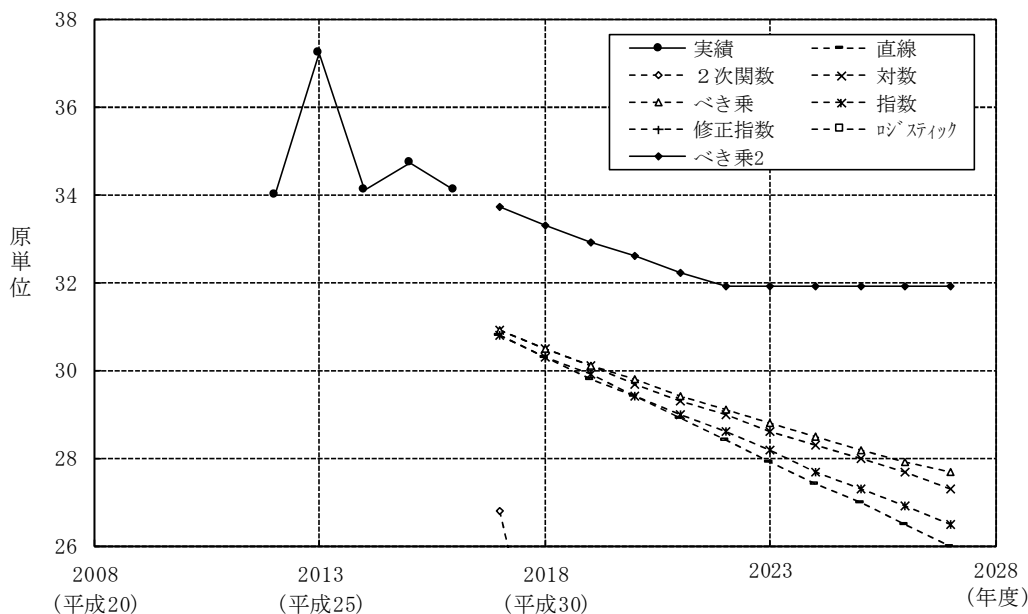


図 5-7 家庭系粗大ごみ原単位の推移

(3) 事業系ごみの推計

事業系ごみ量の実績は、表 5-9 のように整理し、以下に示すように推計します。

《推計方法》

家庭系ごみと、同様の推計とします。

- ① 可燃ごみに可燃系資源(せん定枝)を含めた可燃系ごみを時系列分析により予測します。

$$\text{可燃系ごみ} = \text{可燃ごみ} + \text{可燃系資源}$$

- ② 可燃系資源を時系列分析により予測します。

$$\text{可燃系資源} = \text{せん定枝}$$

- ③ 可燃ごみは、可燃系ごみからの可燃系資源の差分とします。

$$\text{可燃ごみ} = \text{可燃系ごみ} - \text{可燃系資源}$$

表 5-9 事業系ごみ量の実績

区分				年度	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)
(52)	事業系ごみ	可燃系ごみ	可燃ごみ	t/年	13,073	13,282	13,034	13,543	13,534
(53)			公共ごみ	t/年	1,718	1,555	1,975	2,000	2,127
(54)			せん定枝	t/年	1,886	1,876	2,114	2,134	2,164
(55)				t/日	5.17	5.14	5.79	5.83	5.93
(56)			計(可燃ごみ+公共ごみ+せん定枝)	t/年	16,677	16,713	17,123	17,677	17,825
(57)				t/日	45.69	45.79	46.91	48.30	48.84

表 5-10 時系列分析の選定の考え方

項目	選定の考え方
可燃系ごみ	可燃系ごみ日量の実績は、減少傾向を示しています。将来は、2016年度(平成28年度)の伸び率が小さいことから、最も緩やかな増加傾向を示す「対数式」を、将来を示す線形として採用します。
可燃系資源	可燃系資源日量の実績は、2014年度(平成26年度)から剪定枝余剰分が含まれており、過去3か年で推計を行います。将来は、増加率の最も低い「対数式」を、将来を示す線形として採用します。

表 5-11 事業系可燃ごみ日量の実績及び推計

【実績値】

年度	日量
2012	45.69
2013	45.79
2014	46.91
2015	48.30
2016	48.84

区 分	予 測 式
直線	$Y=(0.88100)X+(24.200)$
2次関数	$Y=(-3.3904)X+(0.082143)X^2+(79.564)$
対数	$Y=(22.795)\log X+(-27.130)$
べき乗	$Y=(9.7626)X^{(0.48316)}$
指数	$Y=(1.0188)*(28.980)^X$
修正指数	
ロジスティック	
対数2	[対数]+0.01

Y：予測値 X：年 度

注) 空欄は推計式が適用できず計算不能のため推計結果無し。

【推計値】

年度	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	修正指数	ロジスティック	対数2
2017	49.75	50.32	49.63	49.68	49.80			49.64
2018	50.63	51.78	50.40	50.50	50.74			50.41
2019	51.51	53.40	51.15	51.30	51.70			51.16
2020	52.39	55.18	51.87	52.10	52.67			51.88
2021	53.27	57.13	52.57	52.88	53.66			52.58
2022	54.15	59.25	53.25	53.64	54.67			53.26
2023	55.04	61.52	53.92	54.40	55.70			53.93
2024	55.92	63.97	54.56	55.15	56.75			54.57
2025	56.80	66.57	55.18	55.88	57.82			55.19
2026	57.68	69.34	55.79	56.61	58.91			55.80
2027	58.56	72.28	56.38	57.32	60.02			56.39
2027 -2017	8.81	21.96	6.75	7.64	10.22			6.75

注) 網掛けが採用値。空欄は推計結果が0以下若しくは計算不能。

相関	0.972444	0.978344	0.969625	0.970017	0.972690			
----	----------	----------	----------	----------	----------	--	--	--

注) 相関は相関係数を示し、1.0に近いほど実績と推計値の計算上の相関が高いことを示す。
相関は参考であり、推計値の採否は実績傾向を確認して行う。

(t/日)

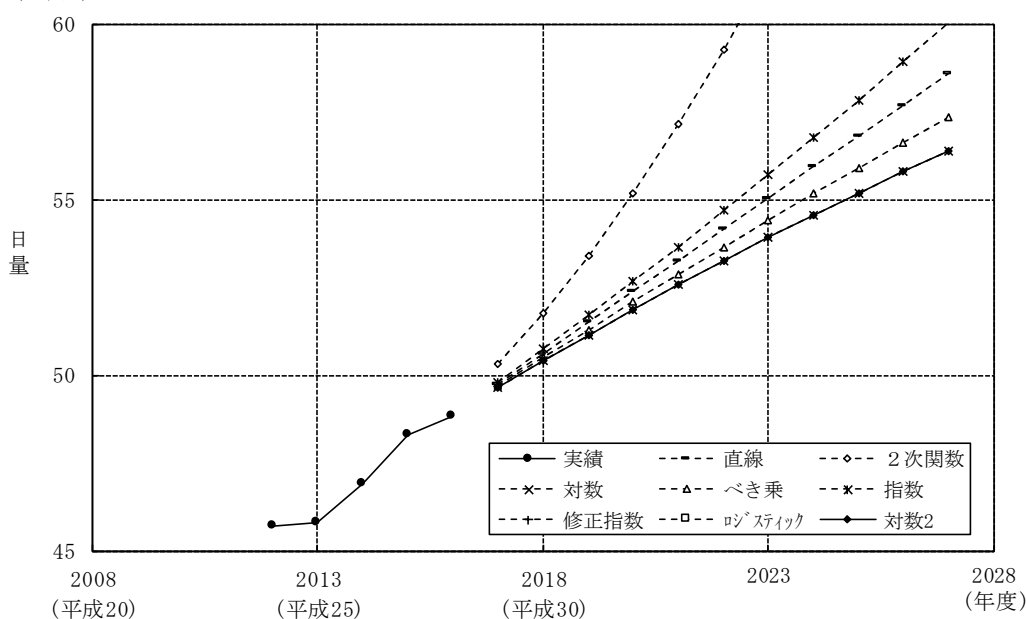


図 5-8 事業系可燃ごみ日量の推移

表5-12 可燃系資源日量の実績及び推計

【実績値】

年度	日量
2012	(5.17)
2013	(5.14)
2014	5.79
2015	5.83
2016	5.93

区 分	予 測 式
直線	$Y=(0.070000)X+(3.9600)$
2次関数	
対数	$Y=(1.8839)\log X+(-0.35823)$
べき乗	$Y=(2.0277)X^{(0.32151)}$
指数	$Y=(4.2370)*(1.0120)^X$
修正指数	
ロジスティック	
対数2	[対数]+0.01

Y：予測値 X：年 度

注) 空欄は推計式が適用できず計算不能のため推計結果無し。

【推計値】

年度	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	修正指数	ロジスティック	対数2
2017	5.99		5.99	5.99	5.99			6.00
2018	6.06		6.05	6.05	6.06			6.06
2019	6.13		6.11	6.12	6.14			6.12
2020	6.20		6.17	6.18	6.21			6.18
2021	6.27		6.23	6.24	6.28			6.24
2022	6.34		6.29	6.30	6.36			6.30
2023	6.41		6.34	6.36	6.44			6.35
2024	6.48		6.39	6.42	6.51			6.40
2025	6.55		6.44	6.47	6.59			6.45
2026	6.62		6.49	6.53	6.67			6.50
2027	6.69		6.54	6.58	6.75			6.55
2027 -2017	0.70		0.55	0.59	0.76			0.55

注) 網掛けが採用値。空欄は推計結果が0以下若しくは計算不能。

相関	0.970725		0.968101	0.968765	0.971362			
----	----------	--	----------	----------	----------	--	--	--

注) 相関は相関係数を示し、1.0に近いほど実績と推計値の計算上の相関が高いことを示す。
相関は参考であり、推計値の採否は実績傾向を確認して行う。

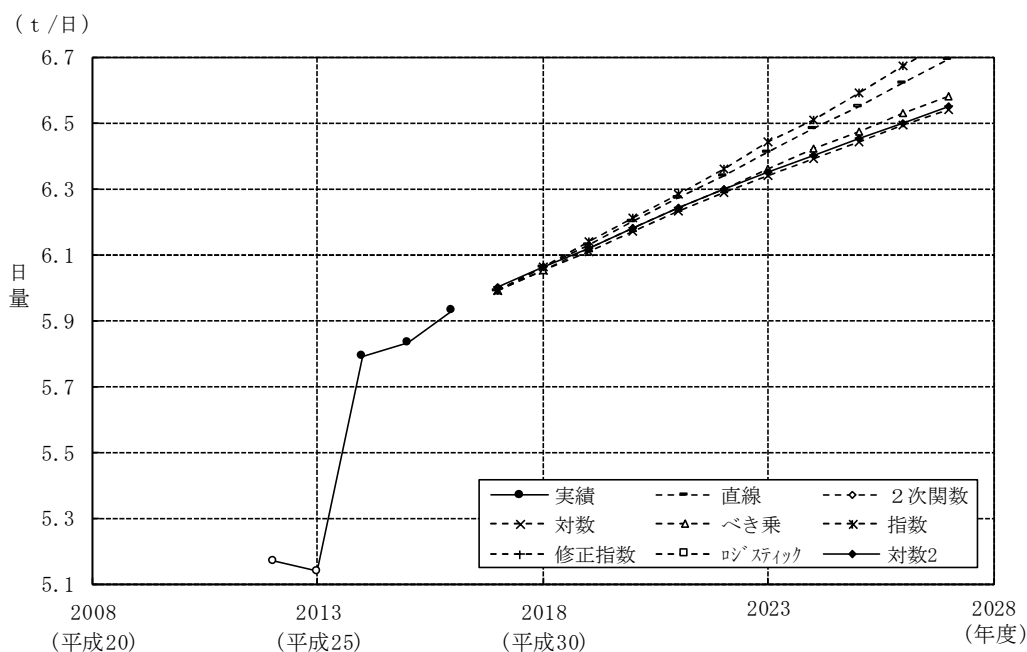


図5-9 可燃系資源日量の推移

(4) ごみ発生量の見込み

時系列分析の結果を整理すると、表 5-13 のとおりです。空きびん等の資源ごみ及び集団資源回収の区分は、2016 年度(平成 28 年度)実績で案分します。

以上の結果、ごみ発生量の見込みは表 5-14 のとおりです。それぞれの施設の処理・処分量は、表 5-15～表 5-20 に示すとおりです。

表5-17 資源化センターの施設処理量の見込み〔発生量ベース(=現状推移)〕

(単位：t/年)

区分					年度		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2,019	2,020	2,021	2,022	2,023	2,024	2,025	2,026	2,027	備考
					(平成24)	(平成25)	(平成26)	(平成27)	(平成28)	(平成29)	(平成30)												
[93]	搬入	家庭系ごみ	ペットボトル	持込	287	300	402	416	426	412	398	385	373	362	353	354	355	355	355	355	356	356	= [29] × 99.3% [H28]
[94]	処理後	資源化			267	271	325	362	356	344	333	322	312	303	295	296	297	297	297	297	297	298	= [93] × 83.6% [H28]
[95]		可燃物			13	31	71	55	67	65	62	60	59	57	55	56	56	56	56	56	56	56	= [93] × 15.7% [H28]
[96]		計			280	302	396	417	423	409	395	382	371	360	350	352	353	353	353	353	354	354	= Σ [[94]~[95]]

表5-18 プラスチックリサイクルセンターの施設処理量の見込み〔発生量ベース(=現状推移)〕

(単位：t/年)

区分					年度		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2,019	2,020	2,021	2,022	2,023	2,024	2,025	2,026	2,027	備考	
					(平成24)	(平成25)	(平成26)	(平成27)	(平成28)	(平成29)	(平成30)													
[97]	搬入	家庭系ごみ	プラ製容器包装	収集	1,269	1,205	1,184	1,202	1,167	1,127	1,090	1,055	1,023	993	966	968	970	973	974	974	974	976	976	= [13]
[98]	処理後	資源化			1,161	1,142	1,170	1,182	1,160	1,120	1,083	1,049	1,017	987	960	962	964	967	968	968	968	970	970	= [97] × 99.4% [H28]

表5-19 せん定枝リサイクルプラントの施設処理量の見込み〔発生量ベース(=現状推移)〕

(単位：t/年)

区分					年度		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2,019	2,020	2,021	2,022	2,023	2,024	2,025	2,026	2,027	備考	
					(平成24)	(平成25)	(平成26)	(平成27)	(平成28)	(平成29)	(平成30)													
[99]	搬入	家庭系ごみ	せん定枝	持込	483	606	737	765	701	677	655	634	614	597	580	581	583	584	584	584	585	586	586	= [35]
[100]		事業系ごみ	せん定枝		1,886	1,876	2,114	2,134	2,164	2,190	2,212	2,234	2,256	2,278	2,300	2,318	2,336	2,354	2,373	2,373	2,373	2,391	2,391	= [54]
[101]		処理能力超過分(焼却処理)			-1,004	-997	-1,292	-1,389	-1,417	-1,419	-1,419	-1,420	-1,421	-1,423	-1,426	-1,435	-1,445	-1,454	-1,464	-1,464	-1,464	-1,474	-1,474	= - [[99]+[100]] × 49.5% [H28]
[102]		計			1,365	1,485	1,559	1,510	1,448	1,448	1,448	1,448	1,449	1,452	1,454	1,464	1,474	1,484	1,484	1,494	1,494	1,503	1,503	= Σ [[99]~[101]]
[103]	処理後	たい肥			1,066	1,048	1,002	974	978	977	977	977	978	980	981	988	995	1,002	1,008	1,008	1,015	1,015	1,015	= [102] × 67.5% [H28]
[104]		破碎品			71	13	9	9	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	= [102] × 0.35% [H28]
[105]		計			1,137	1,061	1,011	983	983	982	982	982	983	985	986	993	1,000	1,007	1,013	1,013	1,020	1,020	1,020	= Σ [[103]~[104]]

表5-20 最終処分場の施設処分量の見込み〔発生量ベース(=現状推移)〕

(単位：t/年)

区分				年度		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2,019	2,020	2,021	2,022	2,023	2,024	2,025	2,026	2,027	備考		
				(平成24)	(平成25)	(平成26)	(平成27)	(平成28)	(平成29)	(平成30)														
[106]	総ごみ排出量				64,274	64,276	64,239	64,822	63,963	63,825	63,690	63,568	63,455	63,407	63,371	63,720	64,062	64,394	64,695	64,988	64,988	64,988	= [57]	
[107]	リサイクルプラザ	不燃物	→ 最終処分場		725	839	851	833	738	731	723	716	708	702	696	698	699	701	702	702	704	704	704	= Σ [[84]~[85]]
[108]	環境クリーンセンター	焼却灰	→ アセック等		5,496	5,334	5,359	5,417	5,513	5,559	5,582	5,604	5,624	5,649	5,672	5,707	5,741	5,774	5,804	5,833	5,833	5,833	5,833	= [72]
[109]	計				6,221	6,173	6,210	6,250	6,251	6,290	6,305	6,320	6,332	6,351	6,368	6,405	6,440	6,475	6,506	6,537	6,537	6,537	= Σ [[107]~[108]]	
[110]	最終処分率				9.7%	9.6%	9.7%	9.6%	9.8%	9.9%	9.9%	9.9%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.1%	10.1%	10.1%	10.1%	10.1%	10.1%	10.1%	= [109] / [106]

表 5-21 施設処理後の資源化量の見込み〔発生量ベース(=現状推移)〕

(単位：t/年)

区分		年度	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2,019	2,020	2,021	2,022	2,023	2,024	2,025	2,026	2,027	備 考
[111]	環境クリーンセンター	スラグ	583	586	577	566	565	551	553	555	557	560	562	566	569	572	575	578	= [67]
[112]		金属類	98	92	90	89	83	85	85	86	86	87	87	87	88	88	89	89	= [68]
[113]		飛灰山元還元	9	9	10	8	12	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	11	= [69]
[114]		計	690	687	677	663	660	646	648	651	653	657	659	663	667	670	674	678	= Σ [[111]~[113]]
[115]	リサイクルプラザ	金属類	1,248	1,239	1,174	1,155	1,126	1,111	1,098	1,087	1,077	1,067	1,058	1,061	1,063	1,066	1,068	1,070	= [86]
[116]		びん・カレット類	962	962	978	900	978	965	954	944	936	927	919	921	924	926	927	929	= [87]
[117]		再生家具等	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	10	10	= [88]
[118]		家電	0	128	114	111	148	146	144	143	141	140	139	139	140	140	140	141	= [89]
[119]		充電池	0	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	= [90]
[120]		再生プラスチック	0	16	15	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	= [91]
[121]	計	2,220	2,356	2,293	2,189	2,264	2,234	2,208	2,186	2,166	2,145	2,127	2,132	2,138	2,143	2,147	2,152	= Σ [[115]~[120]]	
[122]	資源化センター	ペットボトル	267	271	325	362	356	344	333	322	312	303	295	296	297	297	297	298	= [94]
[123]	プラスチック リサイクルセンター	プラ製容器包装	1,161	1,142	1,170	1,182	1,160	1,120	1,083	1,049	1,017	987	960	962	964	967	968	970	= [98]
[124]	せん定枝 リサイクルプラント	たい肥	1,066	1,048	1,002	974	978	977	977	977	978	980	981	988	995	1,002	1,008	1,015	= [103]
[125]		破砕品	71	13	9	9	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	= [104]
[126]		計	1,137	1,061	1,011	983	983	982	982	982	983	985	986	993	1,000	1,007	1,013	1,020	= Σ [[124]~[125]]
[127]	総 計	5,475	5,517	5,476	5,379	5,423	5,326	5,254	5,190	5,131	5,077	5,027	5,046	5,066	5,084	5,099	5,118	= Σ [[114], [121]~[123], [126]]	

表 5-22 総資源化量の見込み〔発生量ベース(=現状推移)〕

(単位：t/年)

区分		年度	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2,019	2,020	2,021	2,022	2,023	2,024	2,025	2,026	2,027	備 考
[128]	総ごみ排出量		64,274	64,276	64,239	64,822	63,963	63,825	63,690	63,568	63,455	63,407	63,371	63,720	64,062	64,394	64,695	64,988	= [57]
[129]	直接資源化		6,141	5,992	5,625	5,362	4,943	4,781	4,624	4,481	4,344	4,222	4,108	4,119	4,127	4,138	4,147	4,152	= Σ [[11]~[12], [27]~[34]] + [29] × 0.7% [H28]
[130]	集団資源回収		4,217	4,033	3,846	3,630	3,387	3,271	3,163	3,062	2,970	2,884	2,804	2,810	2,818	2,824	2,830	2,836	= [48]
[131]	施設からの資源化		5,475	5,517	5,476	5,379	5,423	5,326	5,254	5,190	5,131	5,077	5,027	5,046	5,066	5,084	5,099	5,118	= [127]
[132]	計		15,833	15,542	14,947	14,371	13,753	13,378	13,041	12,733	12,445	12,183	11,939	11,975	12,011	12,046	12,076	12,106	= Σ [[129]~[131]]
[133]	リサイクル率		24.6%	24.2%	23.3%	22.2%	21.5%	21.0%	20.5%	20.0%	19.6%	19.2%	18.8%	18.8%	18.7%	18.7%	18.7%	18.6%	= [132] / [128]
[134]	民間古紙回収			910	1,671	1,919	1,976	1,980	1,982	1,984	1,986	1,991	1,996	2,000	2,005	2,010	2,014	2,017	= 29.0g/人・日 [H28] × [1] × 365 / 10 ⁶
[135]	リサイクル率			25.2%	25.2%	24.4%	23.9%	23.3%	22.9%	22.5%	22.1%	21.7%	21.3%	21.3%	21.2%	21.2%	21.1%	21.1%	= [[132]+[134]] / [[128]+[134]]

(5) ごみ排出量の見込み

ごみ排出量の見込みは、表 5-23 のとおりです。それぞれの施設の処理・処分量は、表 5-24～表 5-29 に示すとおりです。

表5-23 ごみ排出量の見込み〔資源回収拡大・排出抑制後〕

区分	年度	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	備 考			
(1) 人口	人	182,371	183,552	184,780	185,615	186,806	187,008	187,211	187,413	187,615	188,072	188,530	188,987	189,445	189,902	190,236	190,570	= [1]			
収集	可燃ごみ	発生量	t/年	29,110	29,047	29,174	29,403	29,289	29,270	29,249	29,216	29,182	29,181	29,251	29,323	29,393	29,445	29,496	= [2]		
		分別徹底分	t/年								-23	-50	-242	-242	-243	-243	-244	-244	-245	= (2) × 1.8% (含有資源) × 46% (協力率)	
		新聞紙	t/年																		
		雑誌	t/年									-12	-20	-108	-108	-108	-108	-109	-109	-109	= (2) × 0.8% (含有資源) × 46% (協力率)
		雑がみ	t/年									-23	-47	-228	-228	-228	-229	-229	-230	-230	= (2) × 1.7% (含有資源) × 46% (協力率)
		ダンボール	t/年									-6	-15	-67	-67	-67	-67	-68	-68	-68	= (2) × 0.5% (含有資源) × 46% (協力率)
		牛乳パック	t/年									-6	-15	-67	-67	-67	-67	-68	-68	-68	= (2) × 0.5% (含有資源) × 46% (協力率)
		古着・古布	t/年									-12	-23	-120	-120	-120	-120	-121	-121	-121	= (2) × 0.9% (含有資源) × 46% (協力率)
		ペットボトル	t/年									-9	-18	-93	-93	-93	-94	-94	-94	-94	= (2) × 0.7% (含有資源) × 46% (協力率)
		プラ製容器包装	t/年									-123	-245	-1,222	-1,223	-1,226	-1,229	-1,232	-1,234	-1,236	= (2) × 9.1% (含有資源) × 46% (協力率)
	(11) 可燃ごみ	処理量	t/年	29,110	29,047	29,174	29,403	29,289	29,270	29,035	28,783	27,029	27,034	27,033	27,098	27,166	27,228	27,277	27,325	= Σ [(2)~(10)]	
	不燃ごみ	発生量	t/年	1,029	1,008	982	999	881	863	843	830	819	806	789	791	793	795	795	797	= [3]	
		空きびん	t/年										-2	-3	-17	-17	-16	-16	-16	= (12) × 4.5% (含有資源) × 46% (協力率)	
		ペットボトル	t/年										0	0	-2	-2	-2	-2	-2	= (12) × 0.6% (含有資源) × 46% (協力率)	
		プラ製容器包装	t/年											-2	-5	-24	-23	-23	-23	= (12) × 6.3% (含有資源) × 46% (協力率)	
		(16) 不燃ごみ	処理量	t/年	1,029	1,008	982	999	881	863	839	822	776	764	748	750	752	754	756	= Σ [(12)~(15)]	
		(17) 空きびん	発生量	t/年	1,217	1,203	1,233	1,195	1,188	1,176	1,168	1,160	1,153	1,146	1,143	1,146	1,149	1,152	1,153	1,156	= [4]
		空き缶	t/年											2	3	17	17	16	16	16	= -(13)
		発生量	t/年	379	376	360	361	347	344	341	339	336	334	334	334	335	336	337	337	= [5]	
		新聞紙	t/年	613	572	511	457	399	385	372	361	349	339	330	331	332	332	333	334	= [6]	
		雑誌	t/年	375	343	279	252	220	213	206	199	193	188	182	183	183	184	184	184	= [7]	
	雑がみ	t/年	455	434	411	381	344	332	321	311	302	293	285	286	286	287	287	288	= [8]		
	分別徹底分	t/年																			
	ダンボール	t/年	256	253	222	213	213	206	199	193	187	181	176	177	177	178	178	178	= [9]		
	牛乳パック	t/年	4	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	= [10]		
	分別徹底分	t/年																			
	計	t/年	1,703	1,605	1,426	1,305	1,178	1,138	1,170	1,213	1,745	1,715	1,687	1,692	1,694	1,701	1,703	1,706	= Σ [(20)~(29)]		
	古着・古布	発生量	t/年	64	60	57	56	50	49	47	46	44	43	42	42	42	42	42	42	= [12]	
	分別徹底分	t/年																			
	プラ製容器包装	発生量	t/年	1,269	1,205	1,184	1,202	1,167	1,127	1,090	1,055	1,023	993	966	968	970	973	974	976	= [13]	
分別徹底分	t/年																				
計(資源ごみ)	t/年	4,632	4,449	4,260	4,119	3,930	3,834	3,955	4,089	5,684	5,614	5,554	5,567	5,578	5,596	5,603	5,613	= Σ [(17)~(19), (30)~(34)]			
粗大ごみ	t/年	87	107	125	92	89	88	87	86	85	85	84	84	84	85	85	85	85	= [15]		
計(収集)	t/年	34,858	34,611	34,541	34,613	34,189	34,055	33,916	33,780	33,574	33,497	33,419	33,499	33,580	33,663	33,719	33,779	33,779	= Σ [(11), (16), (35)~(36)]		
持込	可燃ごみ	発生量	t/年	1,167	1,270	1,247	1,431	1,461	1,460	1,459	1,457	1,455	1,455	1,459	1,462	1,466	1,468	1,471	= [17]		
		不燃ごみ	t/年	25	24	19	20	26	25	25	25	24	24	23	23	23	23	24	24	= [18]	
		空きびん	t/年	6	6	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	= [19]	
		空き缶	t/年	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	= [20]	
		新聞紙	t/年	1,437	1,382	1,292	1,215	1,141	1,102	1,065	1,031	1,000	971	944	946	949	951	953	954	= [21]	
		雑誌	t/年	1,169	1,109	1,053	1,018	919	888	858	831	806	782	761	763	764	766	768	769	= [22]	
		雑がみ	t/年	458	492	504	515	495	478	463	448	434	422	410	411	412	413	414	414	= [23]	
		ダンボール	t/年	726	699	665	663	641	619	600	581	564	549	550	551	553	554	555	555	= [24]	
		牛乳パック	t/年	13	14	13	13	12	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	= [25]	
		シレッター処理紙	t/年	0	1	7	10	10	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	= [26]	
	計	t/年	3,830	3,724	3,568	3,436	3,240	3,129	3,025	2,929	2,839	2,757	2,682	2,688	2,694	2,701	2,707	2,710	= Σ [(42)~(47)]		
	古着・古布	t/年	338	367	374	391	365	353	341	330	320	311	302	303	304	304	305	305	= [28]		
	ペットボトル	t/年	417	434	442	422	429	415	401	388	376	365	355	356	357	358	358	359	= [29]		
	分別徹底分	t/年																			
	乾電池	t/年	52	52	46	48	47	47	46	46	45	45	45	45	45	45	46	46	= [30]		
	蛍光管	t/年	24	25	22	21	19	19	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	= [31]		
	家電	t/年	0	17	65	69	12	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	= [32]		
	硬質プラ	t/年	0	8	26	28	27	27	27	26	26	26	26	26	26	26	26	26	= [33]		
	廃食用油	t/年	0	0	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	= [34]		
	せん定枝	t/年	483	606	737	765	701	677	655	634	614	597	580	581	583	584	585	586	= [35]		
	計(資源ごみ)	t/年	5,154	5,241	5,287	5,186	4,842	4,683	4,539	4,406	4,349	4,230	4,119	4,129	4,139	4,148	4,157	4,162	= Σ [(43)~(44), (51)~(57)]		
	粗大ごみ	t/年	2,176	2,384	2,176	2,265	2,233	2,212	2,188	2,165	2,147	2,125	2,111	2,116	2,122	2,126	2,130	2,134	= [37]		
	計(持込)	t/年	8,522	8,919	8,729	8,902	8,562	8,380	8,211	8,053	7,975	7,834	7,708	7,727	7,746	7,763	7,779	7,791	= Σ [(41)~(42), (58)~(59)]		
	集団資源回収	資源ごみ	空きびん	t/年	3	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	= [39]	
			空き缶	t/年	24	23	24	24	23	23	23	22	22	22	22	22	22	22	22	22	= [40]
			新聞紙	t/年	2,278	2,155	2,041	1,901	1,790	1,728	1,671	1,618	1,570	1,523	1,481	1,482	1,487	1,490	1,494	1,498	= [41]
			雑誌	t/年	1,102	1,041	987	927	826	798	771	747	724	703	683	685	687	688	690	691	= [42]
			雑がみ	t/年	15	20	29	60	60	58	56	54	52	51	49	50	50	50	50	50	= [43]
			ダンボール	t/年	672	673	650	610	590	570	551	533	517	502	488	489	490	492	492	493	= [44]
			牛乳パック	t/年	44	41	40	37	36	34	33	32	31	30	30	30	30	30	30	30	= [45]
計			t/年	4,111	3,930	3,747	3,535	3,302	3,188	3,082	2,984	2,894	2,809	2,731	2,736	2,744	2,750	2,756	2,762	= Σ [(63)~(67)]	
古着			t/年	79	78	72	68	60	58	56	54	52	51	49	50	50	50	50	50	= [47]	
計(集団資源回収)			t/年	4,217	4,033	3,846	3,630	3,387	3,271	3,163	3,062	2,970	2,884	2,804	2,810	2,818	2,824	2,830	2,836	= Σ [(61)~(62), (68)~(69)]	
事業系ごみ	持込	可燃ごみ	発生量	t/年	13,073	13,282	13,034	13,543	13,534	13,766	13,833	1									

表5-24 環境クリーンセンターの施設処理量の見込み〔排出量ベース (=資源回収拡大・排出抑制後)〕

(単位：t/年)

区分		年度		2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	備考		
搬入	{87}	家庭系ごみ	可燃ごみ	収集	29,110	29,047	29,174	29,403	29,289	29,270	29,035	28,783	27,029	27,034	27,033	27,098	27,166	27,228	27,277	27,325	= {11}	
				持込	1,167	1,270	1,247	1,431	1,461	1,460	1,459	1,457	1,455	1,455	1,455	1,455	1,459	1,462	1,466	1,468	1,471	= {39}
	{89}	事業系ごみ	可燃ごみ	収集	13,073	13,282	13,034	13,543	13,534	13,766	13,833	13,893	13,943	13,988	14,026	14,065	14,094	14,116	14,135	14,149	14,149	= {77}
				公共ごみ	1,718	1,555	1,975	2,000	2,127	2,163	2,173	2,183	2,191	2,198	2,204	2,210	2,215	2,218	2,222	2,223	2,223	2,223
	{91}	リサイクルプラザ	可燃物	1,950	1,899	1,827	1,859	1,956	1,935	1,911	1,891	1,865	1,847	1,833	1,837	1,842	1,846	1,849	1,853	1,853	= {111}	
	{92}	資源化センター	可燃物	13	31	71	55	67	65	64	63	73	72	70	70	71	71	71	71	71	= {123}	
	{93}	せん定枝 リサイクルプラント	可燃物	1,004	997	1,292	1,389	1,417	1,419	1,419	1,420	1,421	1,423	1,426	1,435	1,445	1,454	1,464	1,474	1,474	=- {129}	
	{94}		計	48,035	48,081	48,620	49,680	49,851	50,078	49,894	49,690	47,977	48,017	48,047	48,174	48,295	48,399	48,486	48,566	48,566	=Σ〔{87}～{93}〕	
	{95}	資源化(溶融)	スラグ	583	586	577	566	565	551	549	547	528	528	529	530	531	532	533	533	534	534	= {94} × 1.1% [H28]
				98	92	90	89	83	85	85	84	82	82	82	82	82	82	82	82	82	83	83
9				9	10	8	12	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	= {94} × 0.02% [H28]
690				687	677	663	660	646	644	641	620	620	621	622	622	623	623	624	625	625	627	=Σ〔{95}～{97}〕
{99}		紙資源	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
{100}	焼却灰	5,496	5,334	5,359	5,417	5,513	5,559	5,538	5,516	5,325	5,330	5,333	5,347	5,361	5,372	5,382	5,391	5,391	5,391	5,391	= {94} × 11.1% [H28]	

表5-25 リサイクルプラザの施設処理量の見込み〔排出量ベース (=資源回収拡大・排出抑制後)〕

(単位：t/年)

区分		年度		2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	備考				
搬入	家庭系ごみ	{101}	不燃ごみ	収集	1,029	1,008	982	999	881	863	839	822	776	764	748	750	752	754	754	756	= {16}			
				持込	25	24	19	20	26	25	25	25	24	24	23	23	23	23	23	24	24	24	= {39}	
		{103}	粗大ごみ	収集	87	107	125	92	89	88	87	86	85	85	84	84	84	84	85	85	85	85	= {36}	
				持込	2,176	2,384	2,176	2,265	2,233	2,212	2,188	2,165	2,147	2,125	2,111	2,116	2,122	2,126	2,126	2,130	2,134	2,134	= {59}	
		{105}	空きびん	収集	1,217	1,203	1,233	1,195	1,188	1,176	1,170	1,163	1,170	1,163	1,159	1,162	1,165	1,168	1,169	1,172	1,172	1,172	= {17} + {18}	
				持込	6	6	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	= {41}
		{107}	空き缶	収集	379	376	360	361	347	344	341	339	336	334	334	334	334	335	336	337	337	337	337	= {19}
				持込	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	= {41}
		{109}	残土	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 t/年とする	
		{110}	計	4,923	5,111	4,901	4,936	4,764	4,708	4,650	4,600	4,538	4,495	4,459	4,469	4,481	4,492	4,499	4,499	4,508	4,508	4,508	=Σ〔{101}～{109}〕	
処理後		{111}	可燃物	1,950	1,899	1,827	1,859	1,956	1,935	1,911	1,891	1,865	1,847	1,833	1,837	1,842	1,846	1,849	1,853	1,853	1,853	= {110} × 41.1% [H28]		
		{112}	不燃残さ	708	821	838	814	727	720	711	704	694	688	682	684	686	687	688	688	690	690	690	= {110} × 15.3% [H28]	
		{113}	灰及び残渣	17	18	13	19	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	= {110} × 0.23% [H28]	
		{114}	金属類	1,248	1,239	1,174	1,155	1,126	1,111	1,097	1,086	1,071	1,061	1,052	1,055	1,058	1,060	1,062	1,062	1,064	1,064	1,064	= {110} × 23.6% [H28]	
		{115}	びん・カレット類	962	962	978	900	978	965	953	943	930	921	914	916	916	919	921	922	924	924	924	= {110} × 20.5% [H28]	
		{116}	再生家具等	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	= {110} × 0.21% [H28]	
		{117}	家電	0	128	114	111	148	146	144	143	141	139	138	139	139	139	139	139	139	140	140	= {110} × 3.1% [H28]	
		{118}	充電電池	0	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	= {110} × 0.04% [H28]	
		{119}	再生プラスチック	0	16	15	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 t/年とする	
{120}	計	4,895	5,094	4,971	4,881	4,958	4,900	4,839	4,790	4,723	4,677	4,640	4,652	4,665	4,674	4,681	4,692	4,692	4,692	4,692	=Σ〔{111}～{119}〕			

表5-26 資源化センターの施設処理量の見込み〔排出量ベース(=資源回収拡大・排出抑制後)〕

(単位：t/年)

区分				年度	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	備考
{121}	搬入	家庭系ごみ	ペットボトル	持込	287	300	402	416	426	412	407	403	468	457	447	449	450	451	451	452	= [{50}+{51}] × 99.3% [H28]
{122}	処理後	資源化			267	271	325	362	356	344	340	337	391	382	374	375	376	377	377	378	= {121} × 83.6% [H28]
{123}		可燃物			13	31	71	55	67	65	64	63	73	72	70	70	71	71	71	71	= {121} × 15.7% [H28]
{124}		計			280	302	396	417	423	409	404	400	464	454	444	445	447	448	448	449	= Σ [{122}~{123}]

表5-27 プラスチックリサイクルセンターの施設処理量の見込み〔排出量ベース(=資源回収拡大・排出抑制後)〕

(単位：t/年)

区分				年度	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	備考
{125}	搬入	家庭系ごみ	プラ製容器包装	収集	1,269	1,205	1,184	1,202	1,167	1,127	1,215	1,305	2,269	2,239	2,212	2,217	2,222	2,228	2,231	2,235	= {33}+{34}
{126}	処理後	資源化			1,161	1,142	1,170	1,182	1,160	1,120	1,208	1,297	2,255	2,226	2,199	2,204	2,209	2,215	2,218	2,222	= {125} × 99.4% [H28]

表5-28 せん定枝リサイクルプラントの施設処理量の見込み〔排出量ベース(=資源回収拡大・排出抑制後)〕

(単位：t/年)

区分				年度	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	備考	
{127}	搬入	家庭系ごみ	せん定枝	持込	483	606	737	765	701	677	655	634	614	597	580	581	583	584	585	586	= {57}	
{128}		事業系ごみ	せん定枝		1,886	1,876	2,114	2,134	2,164	2,190	2,212	2,234	2,256	2,278	2,300	2,318	2,336	2,354	2,373	2,391	= {78}	
{129}		処理能力超過分(焼却処理)				-1,004	-997	-1,292	-1,389	-1,417	-1,419	-1,419	-1,420	-1,421	-1,423	-1,426	-1,435	-1,445	-1,454	-1,464	-1,474	= - [{127}+{128}] × 49.5% [H28]
{130}		計				1,365	1,485	1,559	1,510	1,448	1,448	1,448	1,449	1,452	1,454	1,464	1,474	1,484	1,494	1,503		= Σ [{127}~{129}]
{131}	処理後	たい肥			1,066	1,048	1,002	974	978	977	977	977	978	980	981	988	995	1,002	1,008	1,015	= {130} × 67.5% [H28]	
{132}		破砕品			71	13	9	9	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	= {130} × 0.35% [H28]	
{133}		計			1,137	1,061	1,011	983	983	982	982	982	983	983	985	986	993	1,000	1,007	1,013	1,020	= Σ [{131}~{132}]

表5-29 最終処分場の施設処分量の見込み〔排出量ベース(=資源回収拡大・排出抑制後)〕

(単位：t/年)

区分		年度	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	備考
{134}	総ごみ排出量		64,274	64,276	64,239	64,822	63,963	63,825	63,508	63,205	62,909	62,679	62,461	62,629	62,789	62,938	63,058	63,169	= {83}
{135}	リサイクルプラザ	不燃物 → 最終処分場	725	839	851	833	738	731	722	715	704	698	692	694	696	697	698	700	= Σ [{112}~{113}]
{136}	環境クリーンセンター	焼却灰 → アセック等	5,496	5,334	5,359	5,417	5,513	5,559	5,538	5,516	5,325	5,330	5,333	5,347	5,361	5,372	5,382	5,391	= {100}
{137}	計		6,221	6,173	6,210	6,250	6,251	6,290	6,260	6,231	6,029	6,028	6,025	6,041	6,057	6,069	6,080	6,091	= Σ [{135}~{136}]
{138}	最終処分量		9.7%	9.6%	9.7%	9.6%	9.8%	9.9%	9.9%	9.9%	9.6%	9.6%	9.6%	9.6%	9.6%	9.6%	9.6%	9.6%	= {137} / {134}

2020年度の1人1日当たりの最終処分量

$$6,029 \text{ t/年} \div 187,615 \text{ 人} \div 365 \text{ 日} = 88.0 \text{ g/人} \cdot \text{日}$$

表5-30 施設処理後の資源化量の見込み〔排出量ベース(=資源回収拡大・排出抑制後)〕

(単位：t/年)

区分	年度	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	備考		
{139}	環境クリーンセンター	スラグ	583	586	577	566	565	551	549	547	528	528	529	530	531	532	533	534	= {95}	
{140}		金属類	98	92	90	89	83	85	85	84	82	82	82	82	82	82	82	82	83	= {96}
{141}		山元還元	9	9	10	8	12	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	= {97}
{142}		計	690	687	677	663	660	646	644	641	620	620	621	622	623	624	625	627	= Σ [{139} ~ {141}]	
{143}	リサイクルプラザ	金属類	1,248	1,239	1,174	1,155	1,126	1,111	1,097	1,086	1,071	1,061	1,052	1,055	1,058	1,060	1,062	1,064	= {114}	
{144}		びん・カレット類	962	962	978	900	978	965	953	943	930	921	914	916	919	921	922	924	= {115}	
{145}		再生家具等	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	= {116}	
{146}		家電	0	128	114	111	148	146	144	143	141	139	138	139	139	139	139	140	= {117}	
{147}		充電電池	0	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	= {118}	
{148}		再生プラスチック	0	16	15	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	= {119}
{149}	計	2,220	2,356	2,293	2,189	2,264	2,234	2,206	2,184	2,154	2,132	2,115	2,121	2,127	2,131	2,134	2,139	= Σ [{143} ~ {148}]		
{150}	資源化センター	ペットボトル	267	271	325	362	356	344	340	337	391	382	374	375	376	377	377	378	= {122}	
{151}	プラスチック リサイクルセンター	プラ製容器包装	1,161	1,142	1,170	1,182	1,160	1,120	1,208	1,297	2,255	2,226	2,199	2,204	2,209	2,215	2,218	2,222	= {126}	
{152}	せん定枝 リサイクルプラント	たい肥	1,066	1,048	1,002	974	978	977	977	977	978	980	981	988	995	1,002	1,008	1,015	= {131}	
{153}		破砕品	71	13	9	9	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	= {132}	
{154}		計	1,137	1,061	1,011	983	983	982	982	982	983	985	986	993	1,000	1,007	1,013	1,020	= Σ [{152} ~ {153}]	
{155}	総計	5,475	5,517	5,476	5,379	5,423	5,326	5,380	5,441	6,403	6,345	6,295	6,315	6,335	6,354	6,367	6,386	= Σ [{142}, {149} ~ {151}, {154}]		

表5-31 総資源化量の見込み施設処理量の見込み〔排出量ベース(=資源回収拡大・排出抑制後)〕

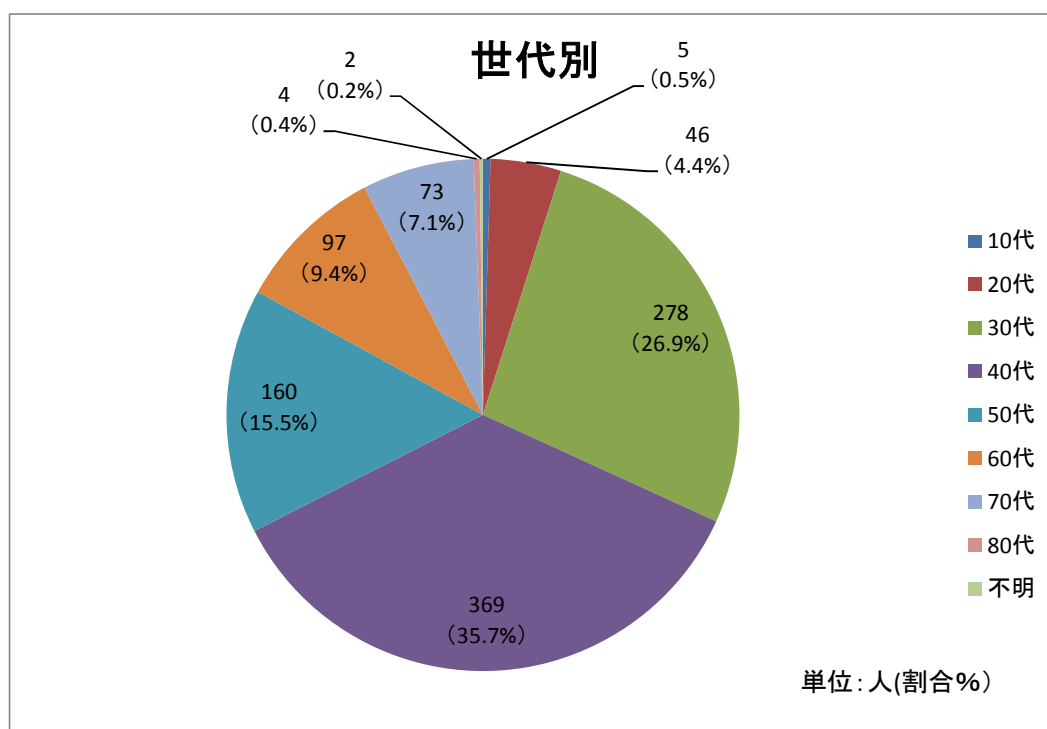
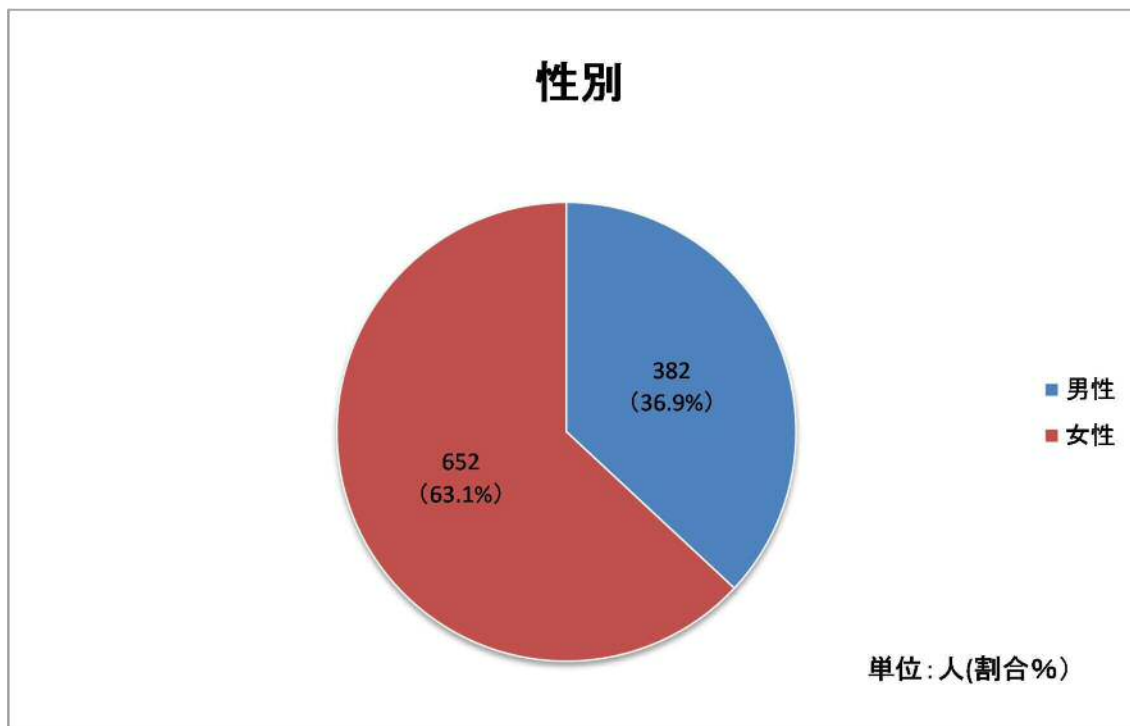
(単位：t/年)

区分	年度	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	備考
{156}	総ごみ排出量	64,274	64,276	64,239	64,822	63,963	63,825	63,508	63,205	62,909	62,679	62,461	62,629	62,789	62,938	63,058	63,169	= {83}
{157}	直接資源化	6,141	5,992	5,625	5,362	4,943	4,781	4,706	4,651	5,176	5,054	4,941	4,953	4,962	4,977	4,987	4,993	= Σ [{30} ~ {32}, {48} ~ {49}, {52} ~ {58}] + [{50} + {51}] × 0.7% [H28]
{158}	集団資源回収	4,217	4,033	3,846	3,630	3,387	3,271	3,163	3,062	2,970	2,884	2,804	2,810	2,818	2,824	2,830	2,836	= {70}
{159}	施設からの資源化	5,475	5,517	5,476	5,379	5,423	5,326	5,380	5,441	6,403	6,345	6,295	6,315	6,335	6,354	6,367	6,386	= {155}
{160}	計	15,833	15,542	14,947	14,371	13,753	13,378	13,249	13,154	14,549	14,283	14,040	14,078	14,115	14,155	14,184	14,215	= Σ [{157} ~ {160}]
{161}	リサイクル率	24.6%	24.2%	23.3%	22.2%	21.5%	21.0%	20.9%	20.8%	23.1%	22.8%	22.5%	22.5%	22.5%	22.5%	22.5%	22.5%	= {160} / {156}
{162}	民間古紙回収		910	1,671	1,919	1,976	1,980	1,982	1,984	1,986	1,991	1,996	2,000	2,005	2,010	2,014	2,017	= 29.0g/人・日 [H28] × {1} × 365 / 10 ⁶
{163}	リサイクル率		25.2%	25.2%	24.4%	23.9%	23.3%	23.3%	23.2%	25.5%	25.2%	24.9%	24.9%	24.9%	24.9%	24.9%	24.9%	= [{160} + {163}] / [{156} + {163}]

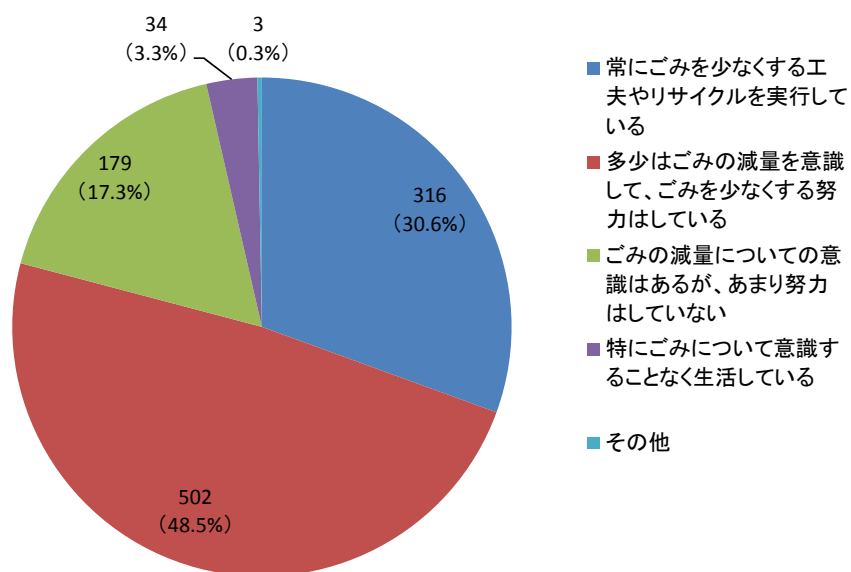
6. 第5回 e モニターアンケート「ごみの減量やリサイクルについて」

実施期間 2017年(平成29年)8月1日～2017年(平成29年)8月8日

回答数 1,034人



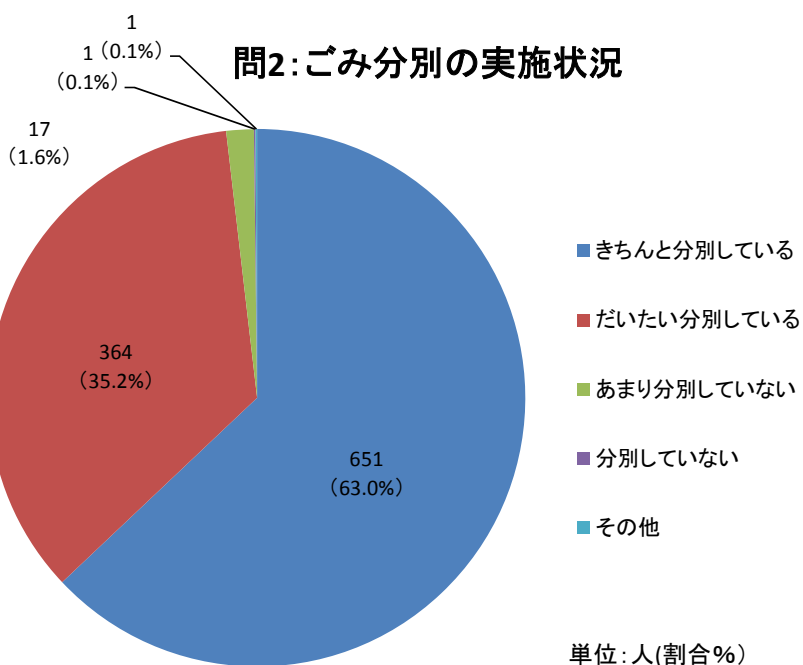
問1:ごみ減量・リサイクル等についての意識



その他と回答した人の意見 (抜粋)

- ・分別にはしっかり気をつけて燃えるゴミはできるだけ減らしてる。
- ・減量は意識するが、庭と畑の草が多く、昔は即燃やせたが、今はゴミとして出さざるを得ない。
- ・分別はしているが、減量の意識はない。

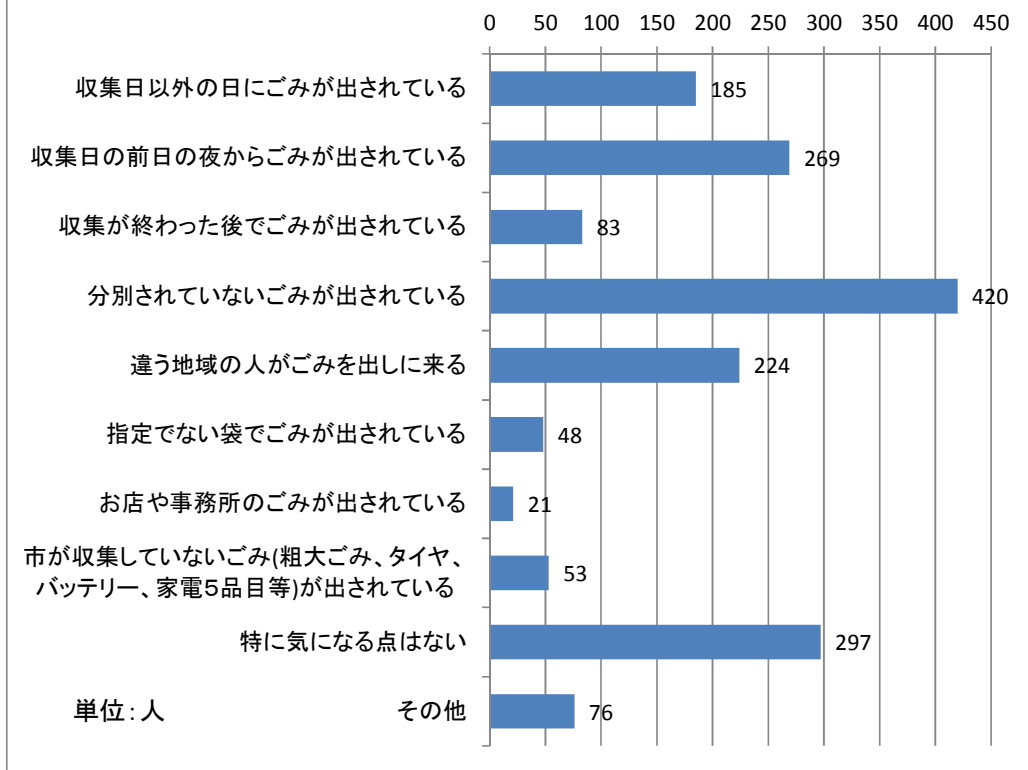
問2:ごみ分別の実施状況



その他と回答した人の意見 (抜粋)

- ・仕事で安城市に来ているだけなので市が収集するゴミを出す機会がない。

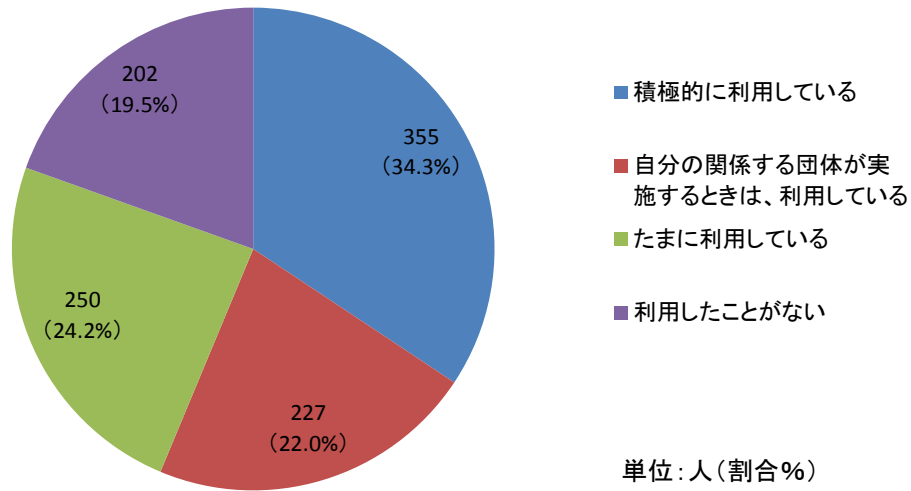
問3:ごみステーション利用について気になる点 (3つまで複数回答)



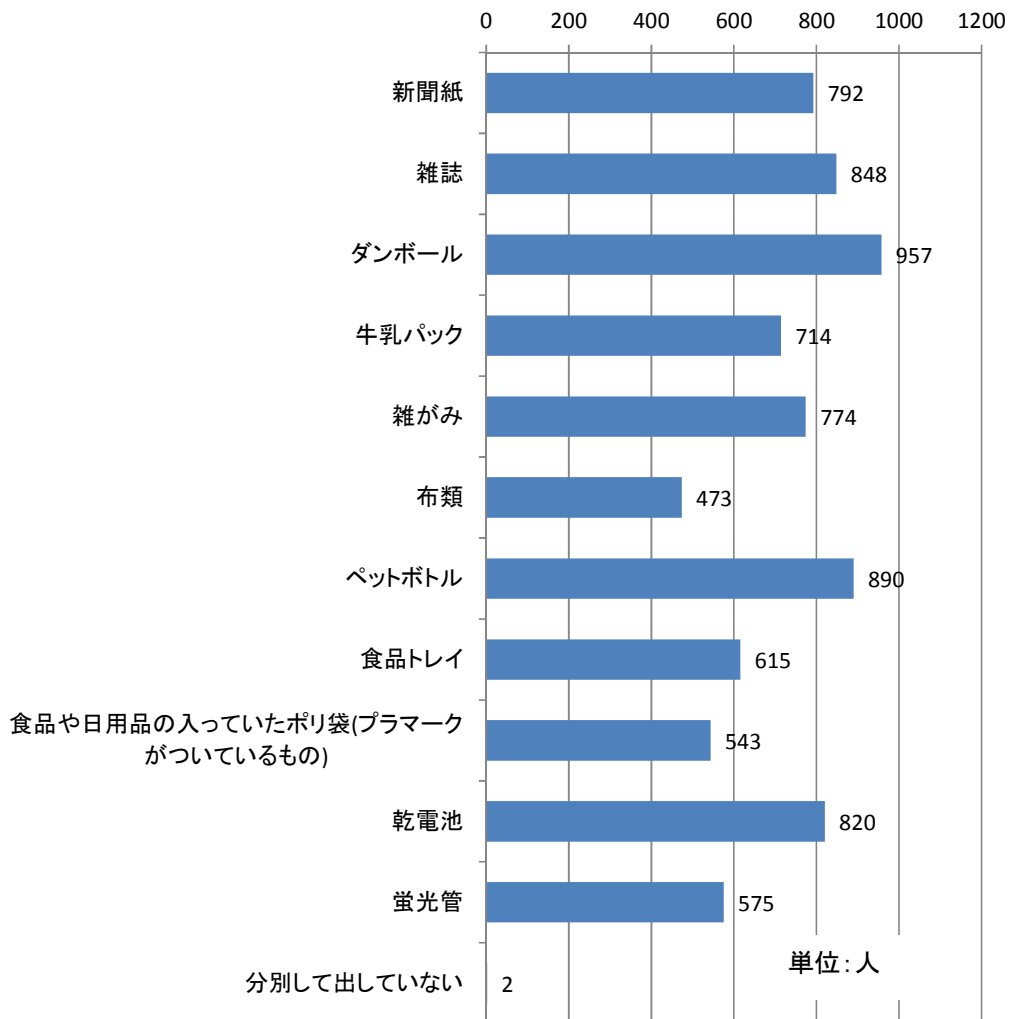
その他と回答した人の意見 (抜粋)

- ・ゴミステーションに網がないため、カラスやその他動物による荒らしがある。
- ・回収後、捨て場が汚い。
- ・回収が遅くてごみ置き場が臭い。
- ・ペットボトルや新聞紙雑誌等リサイクルできそうなものがゴミとして出されている。
- ・カラス防護ネット内に収めていない。
- ・プラゴミの分別がわかっていない人が多い。硬いプラスチック、汚れたプラゴミ。
- ・誰が出したか番号を書くことになっているが、プライバシーの点で抵抗がある。町内会未加入者も当番担当すべき。
- ・家の前の集合住宅のステーションがすごく汚く、分別不十分で回収されず不衛生で、風でゴミが飛んでくることが多い。
- ・回収不可のシールが貼られたゴミ袋が放置されている。
- ・ごみをあさる人がいる。

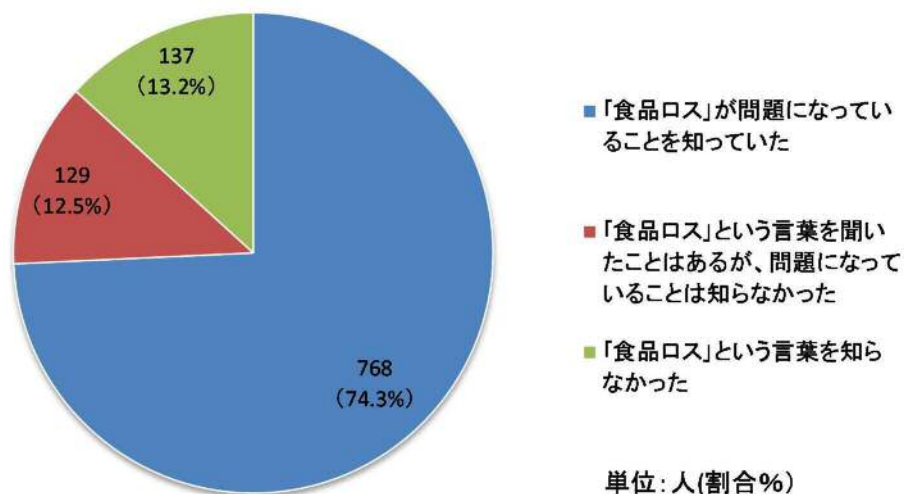
問4: 集団資源回収の利用頻度



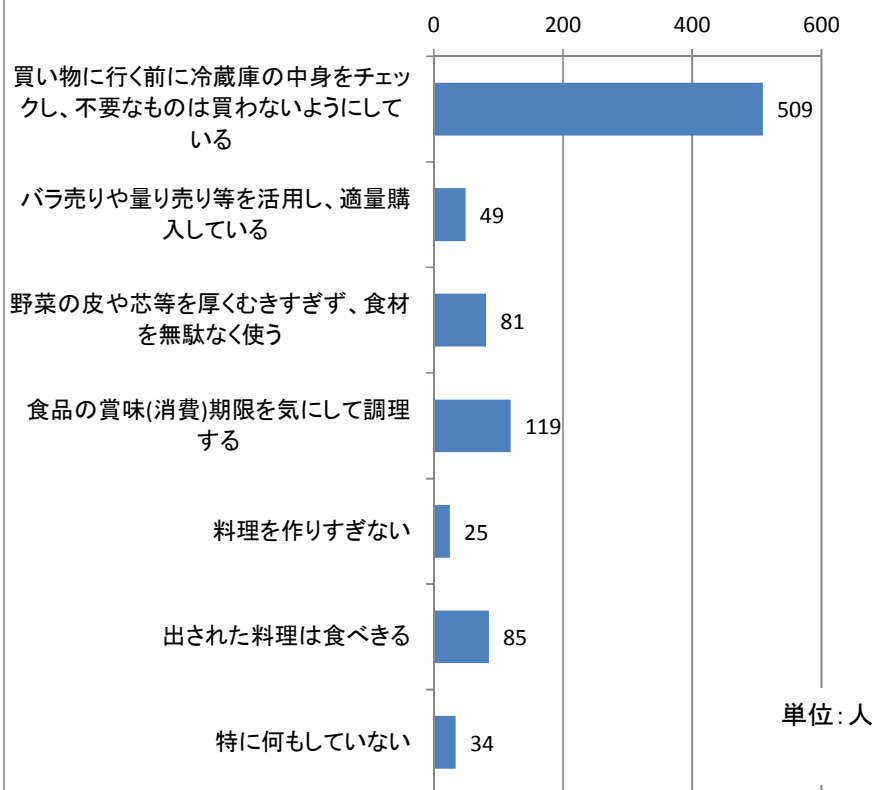
問5: 資源ごみとして分別しているもの (複数回答)



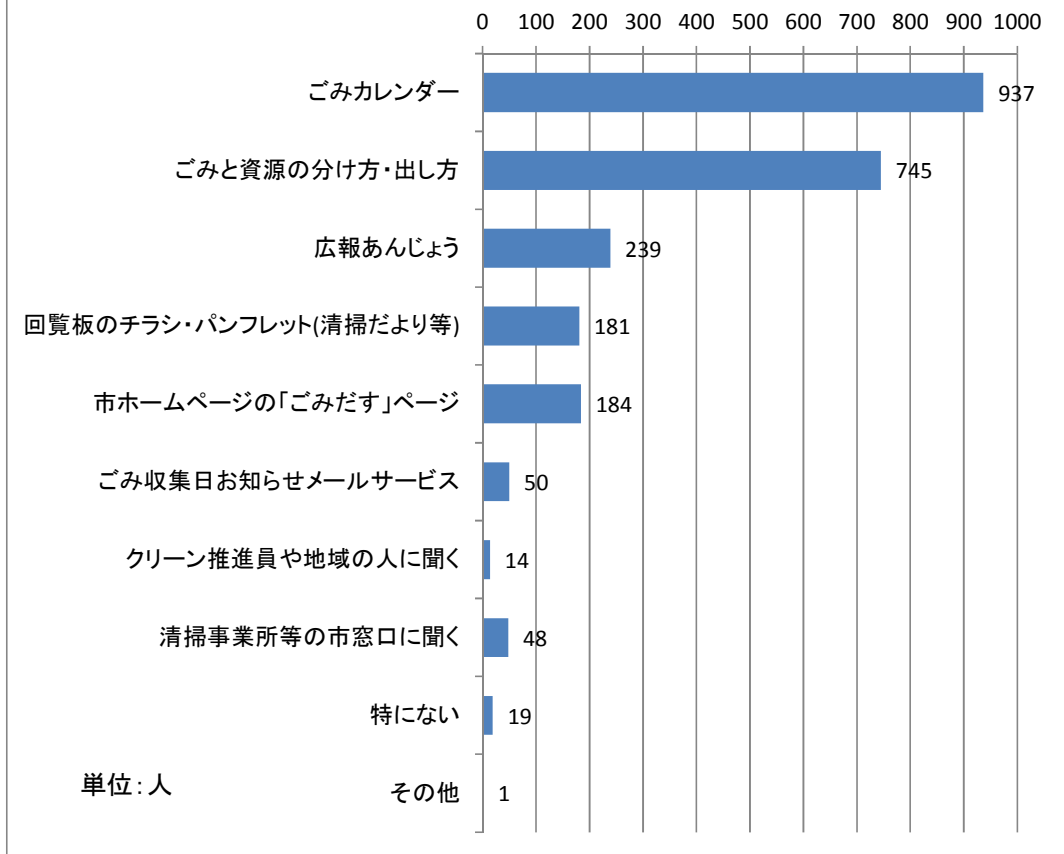
問6:「食品ロス」を知っていたか



問7:「食品ロス」を減らすために行っていること(複数回答。問6で知っているとは回答した人)



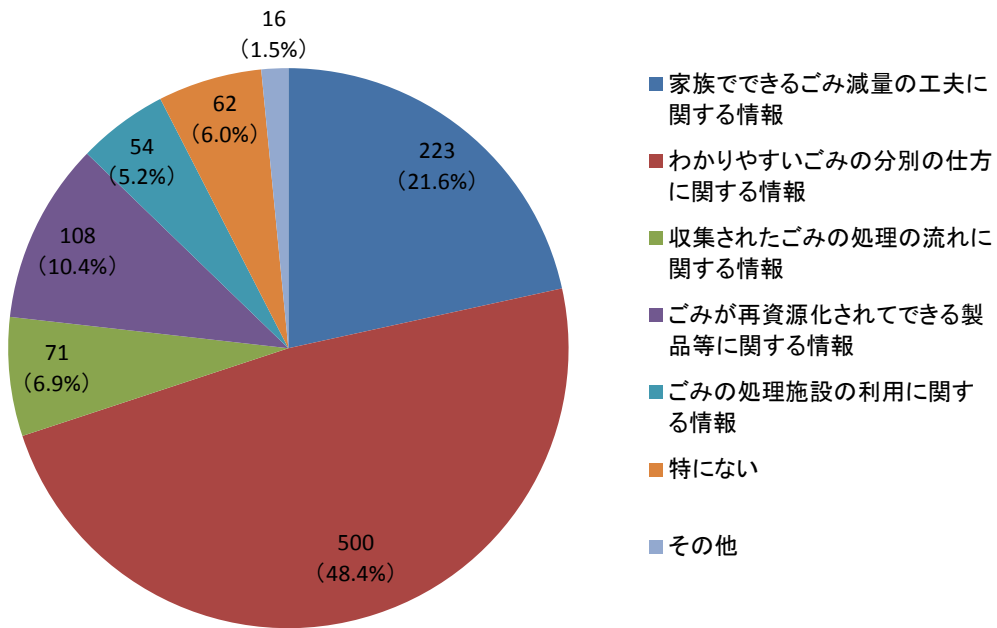
問8:ごみ処理に関する情報の入手先 (複数回答)



その他と回答した人の意見 (抜粋)

- ・資源ゴミの回収所の仕事に一時期従事していた事がある。

問9:ごみ減量・リサイクル推進に最も必要な情報

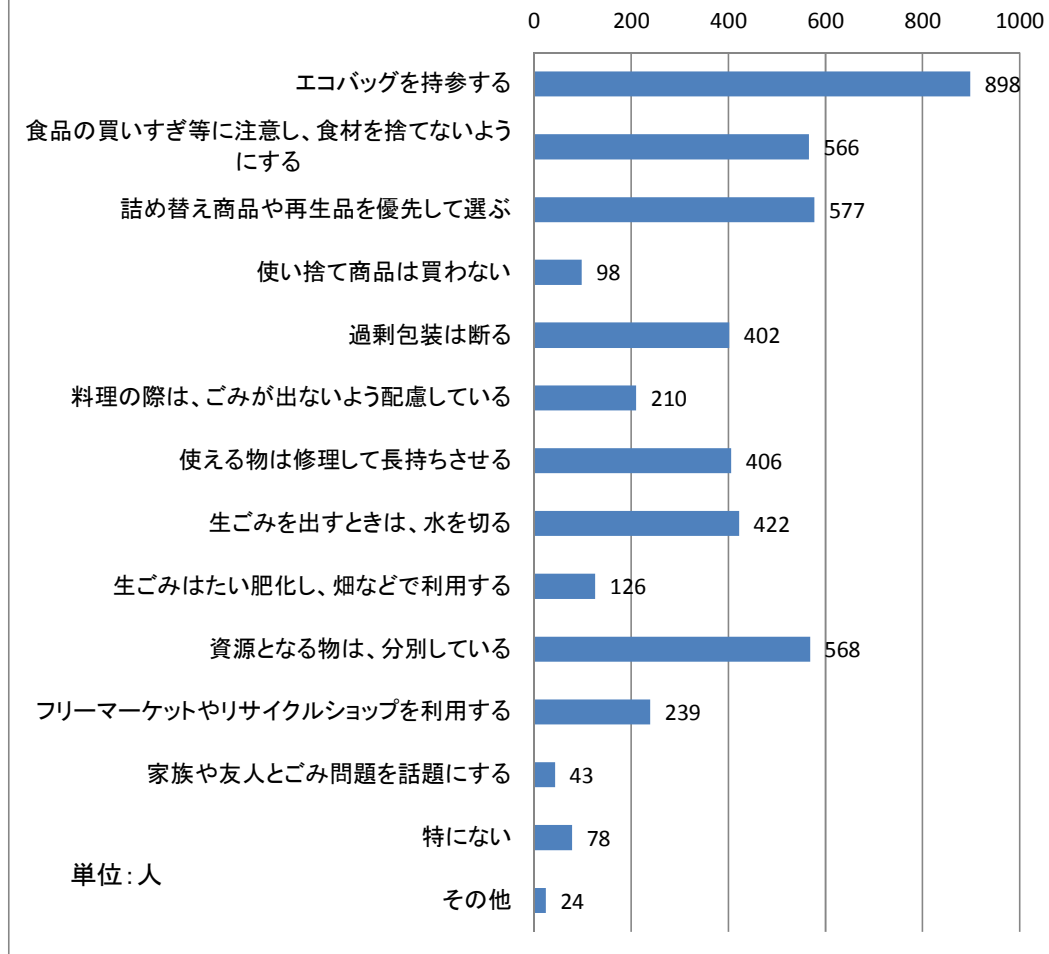


単位:人(割合%)

その他と回答した人の意見 (抜粋)

- ・リサイクルショップの一覧などがあれば活用する。
- ・ごみ減量化が具体的にどのような尺度で評価されて、どのような影響や効果があるのかを立証する。
- ・いつでも全てのゴミを出せるようにする。便利にして、要求値をあげる。
- ・リサイクルステーションを増やす。
- ・リサイクルセンターの情報。やっている時間や取り扱い内容など
- ・ゴミ焼却コストや焼却施設維持費、人件費等、税金からいくらかかるかを市民に知らせれば、もっと減らそう。と思うのでは。
- ・リサイクルポイントの導入
- ・ゴミを少なくするパッケージなどを採用した商品やメーカー、それを販売している店舗などの情報

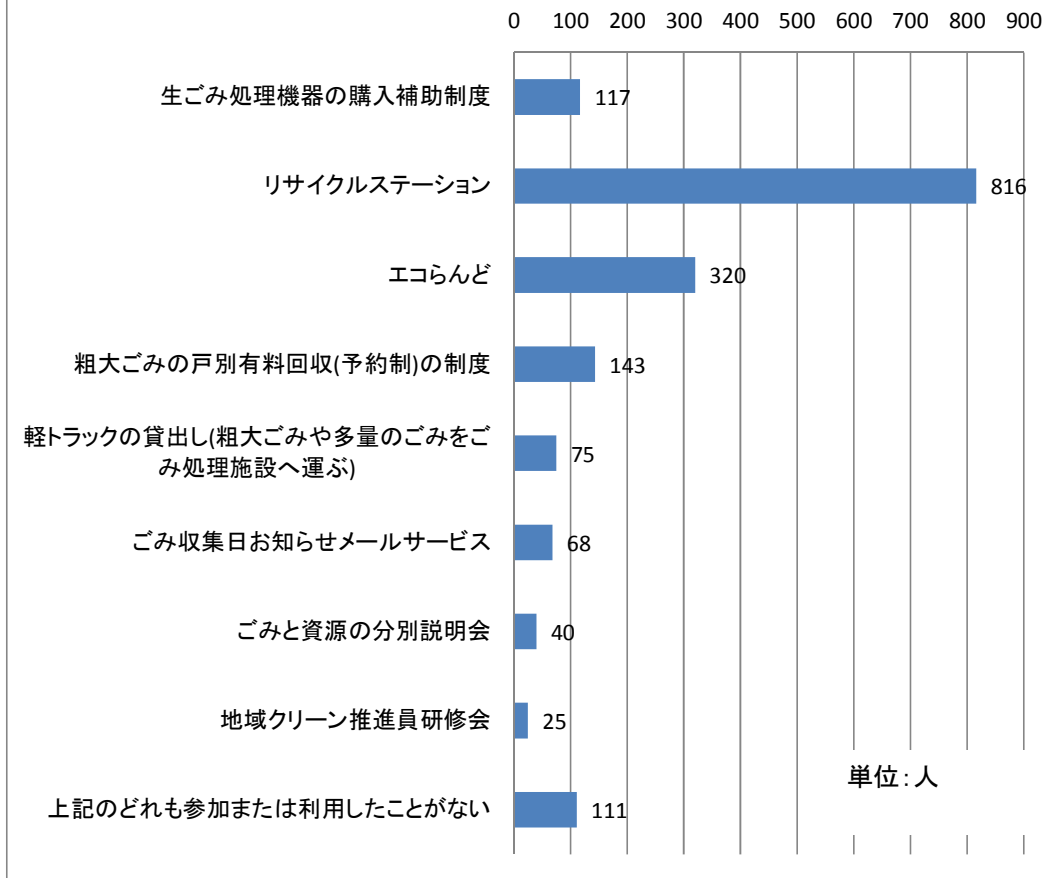
問10:ごみ減量・リサイクル推進のため実行していること(複数回答)



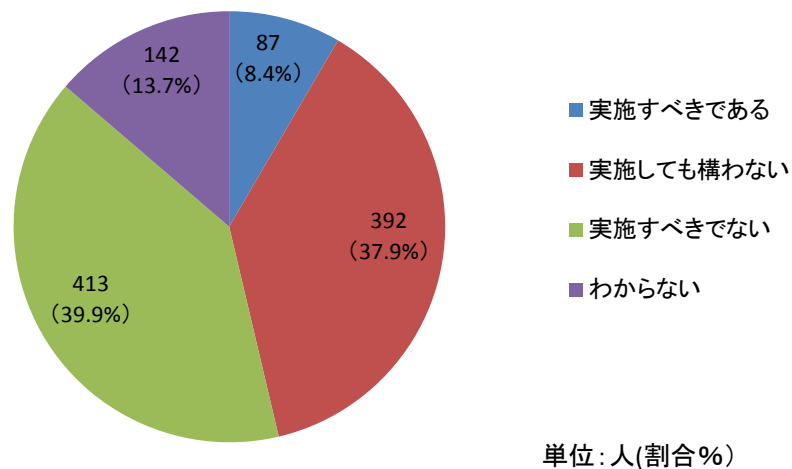
その他と回答した人の意見 (抜粋)

- ・お金を節約する。
- ・子供の服などで不要になった物はほしい人にあげる。
- ・買い物の際、すぐに使うものは賞味期限が短いものを購入する。
- ・生ゴミ処理機を使い、エコらんどに持ち込んでいる。
- ・乾燥ごみとして持ち込みトイレトペーパーに交換する。
- ・必要なもの以外は、買わない！周りの人が処分に困っていたら、代わりに処分してあげる。

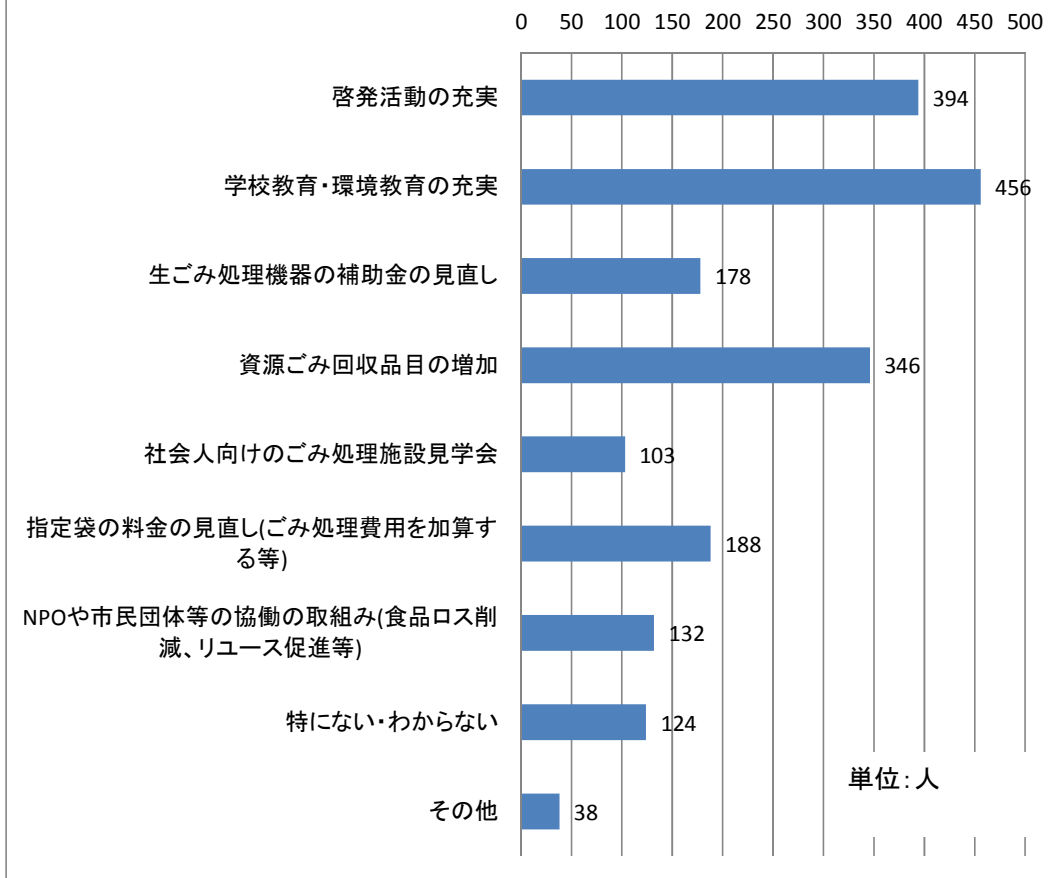
問11: 参加または利用したことがある市の取組み(複数回答)



問12: 家庭ごみの有料化について



問13:ごみ減量やリサイクル推進のため市が 取り組むべき項目



その他と回答した人の意見 (抜粋)

- ・リサイクルステーション等での物品買取
- ・すべての不用品の回収
- ・本当に分別が必要なのかの検討、市民への納得のいく説明
- ・ゴミ袋の無料化
- ・プラごみを一週おきにするなど、市民に負担を求める前に収集にかかる費用を見直す
- ・ごみステーションの監視強化
- ・分別分類を具体的にわかりやすく示す。
- ・他行政のように夜間回収
- ・ごみを出さない、分別することへの特典
- ・プラごみはわかりにくい、もっとわかりやすい分別説明を。ごみステーションの改良
- ・袋代に差をつけ、可燃ゴミの袋を高くする。リサイクルステーション等に持ち込むと、プラゴミの袋を貰える。等、資源ゴミを分別するとお得になるようにする。
- ・ごみ処理施設での混合ごみ処理技術の導入又はAI 分別機能の導入。
- ・回収車の担当へ直接ごみを手渡し、合格をもらい帰宅。
- ・リターナブル瓶の普及
- ・市民ではなく、事業向けのごみ低減に取り組む。
- ・分別ごみを出しやすい環境作り。ステーションが主婦の生活圏内に増やす等。
- ・外国人居住者、アパートの住人に対する指導
- ・ポイント制の導入
- ・ポイント制の導入
- ・エコらんの拡充
- ・リサイクルしている施設が土日営業していればもっと利用する人か増えると思います。
- ・紙ベースの配布物を希望者には電子化する。
- ・リサイクルされたゴミがどのようなになるのかを広報誌などに載せて周知させる
- ・ゴミが少ないパッケージ等を採用した商品やメーカー、を販売店舗などを奨励する。
- ・飲食店や食料品店から出る食品のロスを重点的に減らす。
- ・スーパー店舗で販売時のトレー中止、昔はビニールだけでした。

一般廃棄物(ごみ)処理基本計画 2018～2027 [資料編]

発行 2018年(平成30年)3月

愛知県安城市環境部ごみゼロ推進課

〒444-1155 安城市堀内町西新田2番地

電話番号:0566-76-3053 fax:0566-77-1318

mail:gomizero@city.anjo.lg.jp